

その他の仮設物、建築物、構築物等を起因物（小）とする死亡災害事例（1999-2021年）

年	月	発生時	死亡災害事例	業種 (小) コード	事故 の型 コード	労働 者規 模
2021	1	14 ～ 16	被災者は、事業場ヤード内で出荷パレット上の荷物の荷崩れ防止のため、フィルムでラッピングを行っていたところ足元のブロックにつまづき転倒し、左大腿骨を骨折した。その後、手術のため診療機関で入院加療していたが、合併症により亡くなったもの。	40301	2	100 ～ 299
2021	3	8 ～ 10	被災者は、造船所内の船の引渡し式の横断幕を支えるために単管パイプとクランプで構成された構造物（東西約4.3m、南北約7m、高さ4.5m）を式終了後に解体する業務に従事し、高さ約2.7mの単管パイプの上に乗リクランプを取り外そうとしたところ、単管から墜落し、死亡したもの。被災者はヘルメットを被り、2丁掛けの要求性能墜落制止用器具を着けていたが、そのフックは未使用であった。	11501	1	1～9
2021	4	14 ～ 16	鉄筋コンクリート造建物の新築工事において、6階床スラブの型枠支保工を角型鋼管及びパイプサポート支柱等で補強した荷置き用構台（以下「荷置き用構台」という。）に鉄筋工事業者が鉄筋の束（約13トン）を乗せた後、被災者（二次下請労働者）が、6階床スラブの墨出し作業のため、当該荷置き用構台上に乗っていたところ、荷置き用構台が崩壊して約4m下の5階床に墜落し、鉄筋の束等の下敷きになって死亡したもの。	30203	1	10～ 29
2021	5	18 ～ 20	埠頭ターミナル内の資材保管倉庫の鉄扉（1.19トン）を同僚と2名で閉めていた際に、扉が倉庫内側方向に倒れ、倒れた扉の下敷きとなった。※鉄扉（縦5.03m、横4.15m、厚さ0.1m）	50202	5	1～9
		8	神社の境内において提灯かけに電線を設置するため、玉垣の上（高さ			

2021	6	～	1 2 9. 7センチメートル) で作業していたところ墜落したもの。被災者はその後入院加療を続けていたが、死亡したもの。	170209	1	1～9
2021	11	12 ～ 14	施設内の駐車場出入口にある鉄製の門扉が倒れ、下敷きとなっているところを通りかかった職員に発見され、病院に搬送されたが出血性ショックで死亡したもの。数分前には、一人でレール付近を清掃する姿が見掛けられていた。この門扉は普段から不安定な状態にあり、普段は倒れないように重りが乗せられていたが、災害発生時には重りが乗せられていなかった。	90109	5	50～ 99
2020	1	10 ～ 12	スクラップとするため岸壁上に移送、仮置きされた使用を廃止したアンローダの解体にあたり、被災者は、アンローダAフレーム頂部と接続されている後方ステーを取り外すため、後方ステーのAフレーム接続箇所付近をAフレーム頂部点検台上（高さ約40m）でガス溶断したところ、アンローダ前方カンチレバー部分が崩壊、Aフレームは前方カンチレバーと接続されており崩壊とともに折れ曲がり、被災者が投げ出され地上へ墜落した。	30302	1	1～9
2020	3	14 ～ 16	工場の冷却塔設置工事において高さ約4メートルの冷却塔屋上より、緩衝材を外装版の間に詰める作業を行うにあたり、被災者は要求性能墜落制止用器具を使用せずに屋上床面の端より身を乗り出して作業をし、バランスを崩し約4メートル下へ墜落した。大学付属病院に搬送され、入院加療中であったが、後日死亡した。	30302	1	1000 ～ 9999
2020	4	14 ～ 16	タービン建屋にタービンを冷やす海水を送るための配管を埋設するにあたり障害となる旧工場建屋の杭を撤去するために、コンクリートが充填された鋼管杭（直径50センチメートル、高さ1.87メートル）の表面の鋼管部分の根本付近をガス溶断していたところ、当該鋼管杭が倒壊し、溶断作業を行っていた被災者が下敷きとなったもの。	30201	5	1～9
		16	災害発生当日、躯体4階において、上記被災者を含む6名は共同で、R階スラブの型枠解体作業（型枠を解体し、解体したコンパネ又は型枠支保工を台車に乗せて作業構台まで運搬し、作業構台から移動式ク			

2020	6	～	レーンにより積み降ろす作業）を行っていた。クレーンオペレーター	30209	1	1～9
	18		が被災者が落下しているところを目撃。墜落の瞬間を目撃した者はい			
			ない。作業構台上には、コンパネ 3 1 枚を乗せた台車（約 4 0 0 k			
			g）があった。			
2020	7	10 ～ 12	地下変電所の変圧器搬出作業に使用するための門型仮設吊架台（電動	30309	5	1～9
			チェーンブロックで吊り上げ、電動ローラーに載せて横引きする装			
			置）の仮組工事において、組立て中の門型架台が倒壊し、合図や補助			
			作業をしていた被災者が倒れてきた鋼材に腹部を強打されたもの。			
2020	7	10 ～ 12	船体ブロックの部材（縦 1. 7 メートル、横 3 メートル、厚さ 1 3 ミ	11501	5	1～9
			リメートル、重さ約 5 0 0 キログラムの鉄板）の両面を船体ブロック			
			の縁にレバーブロックで固定し、溶接位置を決める作業中、船体ブ			
			ロックの部材が被災者側に倒れて、頭と顔面を強打したもの。			
2020	7	14 ～ 16	原油タンカー（3 1 万トン）の船体ブロックの一部である「小組」と	11501	5	50～ 99
			呼ばれる部品（L 字型重量約 1. 5 トン）をクレーンで仮置きした			
			後、仮置き用のバー溶接作業を行ったが設置箇所がずれていたため、			
			レバーブロックで微調整していたところ、仮置き用のバーが折れ、小			
			組が被災者に激突したもの。			
2020	8	10 ～ 12	事務所の 1 階にある男子便所の個室で、被災者が倒れていたところ	170209	3	10～ 29
			が、発見された。その後、救急車により搬送されたが、翌日午前中頃			
			に急性硬膜下血腫により死亡に至った。			
2020	8	8 ～ 10	被災者は、着岸した船舶からガントリークレーンを用いて、荷である	50202	1	30～ 49
			コンテナを地上に降ろす際の補助作業（コンテナ移動後のコンテナ倒			
			壊防止金具の取り外し作業）を行っていた。2 段目コンテナの金具を			
			取り外した後、2 段目コンテナ横に設置されていた作業構台（高さ			
			5 ・ 3 メートル）から、1 段目のコンテナ上に移動する際に、何らか			
			の理由により作業構台から、作業構台下の甲板に墜落し、後刻死亡し			
			たもの。			
			現場はダムに設置された水門の塗装工事現場である。塗装の前工程と			

2020	9	14 ～ 16	して、水門周辺の既設通路の上で水門の養生作業を行っていたところ、4. 5メートル下のコンクリート製の取水路に墜落したものと推定する。被災者は脳挫傷により死亡した。	30209	1	1～9
2020	12	8 ～ 10	被災者が、マンションのベランダへ防鳥ネットを確保するためロープ高所作業を行うにあたり、メインロープ及びライフラインいずれも同一の配管架台用支柱に固定して降下したところ、途中で支柱が倒れて、いずれのロープも抜けて地上に墜落したものの。なお、支柱の基礎は特に固定措置がされていなかった。	30309	1	10～ 29
2020	12	16 ～ 18	改修工事において、鋼矢板を使用した基礎工事を行うため、労働者3人により鋼矢板（重さ約650kg）をバイブロハンマーで打込んでいた。被災者は打込み作業中に、状況を確認しようと溝に降り立ったところ、事前に設置していた土留め用の軽量鋼矢板（重さ約100kg）が被災者の背中に倒れ、鋼矢板の上端と軽量鋼矢板の間に胸部を挟まれたもの。	30199	5	10～ 29
2019	2	12 ～ 14	祭りのメインステージを製作する作業において、あらかじめ雪像用に用意された雪塊（奥行5. 5m、幅8m、高さ6～8m、角が3本）にドラグショベルで荒削りしようと爪を立てたところ、当該雪塊が崩壊（奥行2. 5m、幅8m、高さ6m、体積約120m ³ 、重量72t※密度0. 6と仮定）して近くにいた作業員2名が下敷きになった。	30209	5	50～ 99
2019	5	12 ～ 14	屋外にて、出荷する製品の補修作業を行っていたところ、被災者の背面に置いてあった雨天作業用テント（当日の作業では使用していない）が、強風の影響からか倒れ、製品とテントとの間に挟まれた。雨天作業用テントは、幅約9m、長さ1. 1m（蛇腹式で縮めた状態）、高さ約2. 5m、重量不明（確認中）、車輪は片側4個、固定はされていない。	10901	5	10～ 29
		12	新築工事の鉄骨建方において、鉄骨上部の高所作業で作業員3名がボ			

2019	6	～ 14	ルト締めを行っていたところ、鉄骨が倒壊した。倒壊した鉄骨と共に地上へ落下した作業員3名の内、被災者は倒壊した鉄骨の下敷きとなり死亡し、他2名も負傷した。	30201	5	10～ 29
2019	7	16 ～ 18	木造家屋新築工事における既存建物解体工事において、掘削作業を行った。その際、着工時に存否が確認されていなかったコンクリート擁壁が出てきた。コンクリート擁壁は作業を施さず、そのままの状態を維持する予定であったが、被災者は何らかの理由でコンクリート擁壁下部をピック（手持ち削岩機）により破碎していたところ、コンクリート擁壁が倒壊し、下敷きとなった。	30202	5	1～9
2019	8	16 ～ 18	被災者は木造2階建住宅の解体工事中に外部養生のための丸太を組み立てていたところバランスを崩し約6メートル墜落した。	30202	1	10～ 29
2019	9	22 ～ 24	被災者を含む3名で施設警備業務中、被災者が巡回終了予定時刻になっても戻らないことから、他の2名が施設内を捜索していたところ、濁水でほぼ満水となっていた集水桝（縦横55cm、深さ1.2m）内に上半身を前に屈めた状態で沈んでいた被災者を発見した。集水桝にはグレーチングが設置されていたが発見時には開いていた。	170201	10	100 ～ 299
2019	12	8 ～ 10	地上約9.5メートルの高さにあった（鉄道の軌道高架の下から張り出していた型枠支保工の部材である）型枠板から地上まで墜落したもの。なお、被災当日、被災者が入場するまでに、別の関係請負人の労働者が、型枠支保工解体のため、最上部の型枠板を残して、型枠板の下にあった部材（角パイプ等）を撤去していた。	30105	1	10～ 29
2019	12	8 ～ 10	橋台等の補修工事において、橋桁の下にベントを組み立てるため、25tクレーンでベント2節目（高さ7.8m、重量約3t）を降ろした後、被災者は油圧ジャッキを入れてベントの高さを調整していたところ、当該ベントが倒れ、下敷きとなったもの。	30199	5	1～9
			橋脚建設工事用の仮栈橋の支持杭（鋼管杭）を所定の位置に打設するための仮設物の組立作業中に発生したもの。下流側の導枠（打設済の			

2018	3	16 ～ 17	鋼管杭に溶接により取付けたブラケット上に設置されたH形鋼)の先端部付近に、導棒に取付けたガイドに沿って、くい打機により導杭(H形鋼)を挿入していたところ、ブラケットの鋼管杭への溶接部が剥がれ、当該導棒上で合図等を行っていた被災者が導棒ごと川に転落した。	30106	10	1～9
2018	5	14 ～ 15	工事現場において、被災者は地下2階の天井部(スラブ下)にワイヤ固定吊具などを取り付ける作業を土止め支保工上で行っていた。当該天井部は、高所作業となるため、足がかりとして、土止め支保工の火打部分にクランプ2個を用いて、単管を立てて取り付けた。当該単管に被災者がよじ登り、天井部付近で作業していたところ、単管を固定していたクランプ1個が外れ、単管が横に倒れ、被災者は単管から約4.5m下に墜落した。	30201	1	1～9
2018	6	6 ～ 7	被災者は、デイサービスの利用客を各自宅へ社用車で迎えに行くため、近隣のビルの地下1階の駐車場の社用車をとりに徒歩で向かっていたところ、傾斜角10度のスロープ(コンクリート面)において転倒し、2月後に死亡したもの。死亡診断書によると直接死因は、「両側前頭葉脳挫傷」である。	130201	2	10～ 29
2018	6	10 ～ 11	解体工事現場において、ダクトの撤去作業中に、当該ダクトが落下して、被災者の頭部に激突したもの。	30209	4	10～ 29
2018	6	16 ～ 17	道路脇に裏面崩落の復旧工事において、落石防護壁としてH鋼に固定されていた敷鉄板(約900kg)が倒れ、被災者が下敷きになり死亡したもの。現場では、H鋼を立てるため、ロータリーと呼ばれる機械で路面の穿孔作業中で、被災者は穿孔穴付近で砂かきの作業をしていた。	30106	5	30～ 49
2018	8	12 ～	生産設備に組み込まれたリフターの月例点検のため、現地へ出張し、ホイスの操作ボックスを開いて運転操作をしていた被災者が、足がかりにしていた搬器の囲い又は手すりから約4.7m下方に置いて	170209	1	1～9

		13	あった金型上に墜落し、死亡した。			
2017	2	8 ～ 9	門型の鋼製構造物（以下「構造物」という。）の解体作業において、構造物を倒して地上で解体する作業を行っていた。構造物の支柱下部の一部を残して溶断し、倒し易くした状態で、ドラグ・ショベルのバケットで押し倒す作業であった。ドラグ・ショベルで奥側に倒す作業をしていた際、構造物が手前側に倒れ、運転をしていた被災者が、構造物と運転席の間に挟まれた。	30201	5	10～ 29
2017	3	14 ～ 15	ビル外壁等改修工事に伴い、当時躯体西側の外部足場6層目（地上高11m）の外面に、飛来落下物防護棚（以下「朝顔」）を取付ける作業にて、朝顔の骨組みとなる単管材を「くの字」状に組み、これを足場建地に取り付け後、張出し材（単管材下側）に足場板を敷き並べる作業中、「くの字」の先端（張出し材とつなぎ材）を固定するクランプ材が外れ、足場板上にいた労働者2名が、当該板とともに地上に墜落し、死亡した。	30209	1	10～ 29
2017	3	14 ～ 15	ビル外壁等改修工事に伴い、当時躯体西側の外部足場6層目（地上高11m）の外面に、飛来落下物防護棚（以下「朝顔」）を取付ける作業にて、朝顔の骨組みとなる単管材を「くの字」状に組み、これを足場建地に取り付け後、張出し材（単管材下側）に足場板を敷き並べる作業中、「くの字」の先端（張出し材とつなぎ材）を固定するクランプ材が外れ、足場板上にいた労働者2名が、当該板とともに地上に墜落し、死亡した。	30209	1	10～ 29
2017	4	14 ～ 15	建築物解体工事において、単管、緊結金具、ベース金具及び防音シートで構成された仮設養生の解体作業に従事していた被災者が、高さ5.3メートルの単管の水平材上から墜落、加療中であったが死亡した。	30202	1	1～9
2017	4	12 ～	被災者は、解体工事現場で瓦礫の片づけ中、現場を区画するように設置されていた囲い（高さ約7メートル）が崩壊し、その下敷きとなり	30199	5	10～ 29

		13	死亡した。			
2017	4	22 ～ 23	被災者は会社の歓迎会の幹事業務終了後、A駅から同僚と電車に乗り、B駅からは同僚と別れた。C駅で下車するものと思われたが、翌日の午前5時過ぎ、駅の線路側溝に倒れているところを発見され、病院に運ばれたが死亡が確認された。	11209	1	10～ 29
2017	5	8 ～ 9	重量7.2tのボックスカルバートを製作する過程で使用した型枠を解体する際に、横側の型枠（重量推定約800kg）はレールに乗っており、手動によりスライドさせることでボックスカルバートからはずすことができる構造であったが、当該型枠がレールからはずれ、倒れたため、被災者が下敷きとなり、頭蓋骨骨折により死亡した。	10901	4	10～ 29
2017	5	14 ～ 15	プラットフォームの縁に立ち、後進してくるトラックを誘導していた被災者が、約1.2メートル下のコンクリート面に転落した。目撃者によれば、被災者の倒れていた姿勢から転落の際受け身を取るような動作はしておらず、頭から地面に転落した模様。	80202	1	1～9
2017	6	10 ～ 11	免震用の仮設H鋼材（長さ5メートル、重さ約1.75トン）の取り外し作業のため手動のチェンブロック2個を使用して吊り上げていた。被災者は一旦退避していたのが確認されているが、何らかの要因で仮設ブレースの揺動があり、手動のチェンブロックのアンカー部分に衝撃力が加わり落下した際に被災者側に仮設ブレースが揺動したと推定される。	30201	4	0
2017	6	10 ～ 11	集塵ダクトの解体工事において、地上に置かれた廃棄ダクト（長さ：6.3メートル、幅：1.9メートル、重量：11トン、形状：J型）を金属板とモルタルに分離し細断化するため被災者2名（溶断者、補助者）が、ガス溶断作業に従事していたところ、突然ダクトの折れ曲がった部分が裂け崩れ、この一部（長さ約3m、重量約2トン）が被災者2名の上に倒れたことから、溶断者は死亡、補助者は足を負傷した。	30209	6	1～9
			被災者は、同僚らと共に仮設防護柵の撤去作業を行っていたところ、			

2017	7	12 ～ 13	高さ4 mの支柱（重量：約470 kg）が倒壊し、その支柱が被災者の右側頭部を擦りながら右肩口に激突し、その反動で後方に倒れ被災した。被災者らは防護柵の部材を接合していたボルト外し作業等を行っていたものであるが、災害発生直前は、一時的に移動式クレーンの傍らで待機していたものであった。その後、被災者は搬送先の病院で脳挫傷により死亡した。	30106	5	1～9
2017	8	16 ～ 17	高所作業車に搭乗した内装工が、計測のため仮設デッキプレートで覆ったエレベーター開口に近接して作業中、当該仮設デッキプレート上に載ったため、デッキプレートの耐力を超え、デッキプレートと共に約3.6 m下の地下3階に墜落した。また、同デッキプレート上にいた、同僚の内装工と他の請負人の鉄骨工も地下3階まで墜落した。	30201	1	10～ 29
2017	8	16 ～ 17	高所作業車に搭乗した内装工が、計測のため仮設デッキプレートで覆ったエレベーター開口に近接して作業中、当該仮設デッキプレート上に載ったため、デッキプレートの耐力を超え、デッキプレートと共に約3.6 m下の地下3階に墜落した。また、同デッキプレート上にいた、同僚の内装工と他の請負人の鉄骨工も地下3階まで墜落した。	30201	1	10～ 29
2017	8	16 ～ 17	高所作業車に搭乗した内装工が、計測のため仮設デッキプレートで覆ったエレベーター開口に近接して作業中、当該仮設デッキプレート上に載ったため、デッキプレートの耐力を超え、デッキプレートと共に約3.6 m下の地下3階に墜落した。また、同デッキプレート上にいた、同僚の内装工と他の請負人の鉄骨工も地下3階まで墜落した。	30201	1	1～9
2017	8	16 ～ 17	敷地（駐車場）造成工事現場において、石積擁壁の石積み作業中に積み石が崩れ、石積みをしていた被災者が石の下敷きになり死亡した。	30199	5	10～ 29
2017	9	10 ～	輸入トウモロコシを入れていた空サイロ内部において、サイロ内壁面に付着しているトウモロコシ粉（以下、「ダスト」という。）をかき落とす作業をサイロ底部から1.9 m付近で、中央部で垂直に延びる燻蒸用配管に背中を、両足をサイロの逆円錐部分に押し当てる姿勢で	80401	1	10～

		11	行っていたところ、底部に墜落し、そこに次々に壁面からダストがはがれ落ちたため埋もれた。約 2 時間後心肺停止状態で救出、窒息による死亡が確認された。			29
2017	11	10 ～ 11	被災者は、キャンプ場敷地内で落ち葉の集積、焼却などの清掃作業を行っていたが、地面に掘った穴（大きさ約 4.5 m×約 5 m、深さ約 1 m）に大量の落ち葉を入れて焼却中、2 t トラックで運搬されてきた落ち葉を追加投入するため、炎が穴の外まで勢いよく燃え盛る中、その周囲でトラックの誘導等の作業を行っていたところ、誤って穴に転落し、全身に火傷を負い死亡した。	140302	11	1～9
2017	11	14 ～ 15	港の外防波堤先端にある灯台の調査に向かう海上保安官 3 名を小型船舶で送迎する業務において、外防波堤の船着場で海上保安官 3 名と下船し、被災者はその場に留まり、海上保安官は灯台の調査に向かった。下船から約 20 分後、海上保安官 3 名が調査を終えて船着場に戻ったところ、船着場付近で上半身を海面に出して意識がない状態で浮かんでいる被災者（ライフジャケット着用）を発見した。	40102	10	30～ 49
2017	12	14 ～ 15	被災者は建物の 2 階の窓ガラスの清掃を行うため、窓のさんの上に立って作業を行っていたところ、体勢を崩し、6.5 m 下の地上へ墜落した。被災者は着用していた安全帯のカラビナ（道具保持用）にロープを通し、同僚へ持っておくよう指示し、作業を行っていたものの、被災者が墜落した際、同僚は墜落時の衝撃に耐えることができず、ロープを途中で離した。	150101	1	10～ 29
2017	12	0 ～ 1	被災者は午前 0 時から、警備員としてフェリー乗場で車両等の監視業務をしていたが、午前 1 時 55 分頃、喫煙のため警備室を離れた後、行方が分からなくなり、午後 1 時 50 分頃、フェリーターミナル付近の海底で沈んでいるのを発見された。	170201	10	30～ 49
		9	クローラークレーン（100 t）を乗せたスパッド台船において、台船ピットに雨水が溜まっていたことから水中ポンプで排出するため、			

2016	2	～ 10	台船を傾けようと、台船上のクローラクレーンを岸壁側に進めていた。合図を行っていた被災者の指示でクレーンを停止したところ、クレーンが岸壁側に滑り出し台船から被災者とともに海に転落した。運転者は転落直前に運転席から飛び降りた。	11702	10	10～ 29
2016	2	～ 11	高さ31メートルの立体駐車場等の解体工事現場において、粉じんの飛散養生等のため、立体駐車場の外周に設けた単管組みに、防音パネルを取り付ける作業を5名で行っていたところ、そのうちの1名が単管組みの水平材である単管上から約15メートル墜落し、同日死亡した。	30201	1	1～9
2016	3	～ 11	交通安全旗の金属製ポール（高さ約9.59m）が古くなり錆びていたので撤去するため、トラクターショベルのバケットに乗り、高さ約6mの位置に繊維ベルトを掛け、地上に降りた後に被災者が繊維ベルトを引っ張ったところ、ポールが被災者の方に倒れて来たため、振り返って逃げようとした被災者の頭部にポールが当たった。	40301	6	30～ 49
2016	3	～ 8	酒醸造工場の仕込蔵において、被災者が開放タンクにて醸造過程の醪（もろみ）のサンプル採取の為、タンク（高さ約2m×直径約2m）の外周に木製ハシゴを立て掛け、攪拌等作業を単独で行っていたところ、内部に転落した。その後、深さ約1.5mの醪にうつ伏せ状態で浮かんでいるところを他の作業員に発見された。	10105	10	1～9
2016	4	～ 15	被災者は、野積ヤード内で本船より水揚げされた丸棒の荷下ろし作業に従事していた。現場監督は、被災者に番線を取りに行くよう指示した。現場監督がトラックの昇降台を片付けた後、テントハウス（ジャバラ式倉庫）の支柱とテントハウス側面部の間に首をはさまれた被災者を発見した。	50202	7	30～ 49
2016	4	～ 11	会社7階の事務室の喫煙スペースの回転窓から高さ約21メートル下の道路に転落して死亡した。	11709	1	50～ 99
			19時30分頃、宿直代行員の被災者は校舎の巡回中、防火扉（幅			

2016	6	19 ～ 20	2. 3 m×高さ3 m) を閉める際に、風にあおられた防火扉と内壁の戸枠に右後頭部を挟まれ、強打された。その後、ふらつきながら、宿直室に戻ったが、翌日8時30分頃に交替の日直代行員から、布団の中で嘔吐し、倒れているところを発見され、救急搬送されたが、死亡が確認された。	120109	7	10～ 29
2016	10	9 ～ 10	格子型のコンクリートで養生された高さ約15メートルの法面の雑木除去作業において、雑木除去後の法面の清掃中、地面からの高さ約8メートルの地点で安全帯を外したところ墜落し、地面に頭部を強く打って死亡した。	30201	1	30～ 49
2016	11	14 ～ 15	共同住宅の建設工事において外部足場に付設する防護棚（朝顔）の設置作業を行っていた作業員が、付設済みの防護棚の端から約11.8メートル下の地面に墜落した。	30201	1	100 ～ 299
2015	7	0 ～ 1	被災者は、作業構台（約3 m×3 m。手すり、中さん、幅木設置有）上に設置されていたソーラーパネル4基（1基：パネル2枚を架台に取り付けたもの。架台1720×1420 mm。約50 kg）を撤去するため、架台の番線切りやクレーンの玉掛補助作業を行っていた。12基のソーラーパネルが撤去され、被災者は作業構台上で3基目の架台にスリングロープを一人で掛けようとした際、12.45 m下に墜落した。	30105	1	10～ 29
2015	10	9 ～ 10	つり上げ荷重2.9 tのケーブルクレーン1基を解体中、ワイヤーロープ数本（約500 kg）の束を吊り下げた状態のまま、支点としていた仮支柱（全長20メートル、重さ約423 kg：1ロットにつき2メートル×10本）1本が倒壊し、作業中の労働者2名（1名は合図者、1名は解体員）が被災したものの。	30199	5	1～9
2015	7	13 ～ 14	被災者は朝から一人で事業場所有の柚子畑およびその周辺の草刈り作業を行っていたが、終業時刻になっても事業場に戻ってこないため捜索したところ、柚子畑近くの谷川で死亡しているのが発見された。	60101	1	1～9
			木造2階建て建物の解体工事現場において、建物の周囲に仮設した単			

2015	11	14 ～ 15	管の骨組みへの養生（飛散防止用）シートの取り付け作業中、2階の屋根上（高さ6.01m）で当該作業を監督していた労働者が、単管の骨組みから外側に約1m40cm離れた道路上に墜落した。被災者の災害発生時の状況は不明であるが、災害発生10分前に、被災者が単管の骨組み上部にいたところを目撃されている。	30202	1	1～9
2015	8	13 ～ 14	解体処理中の天井クレーンガーダーから走行ロッカー（上部及び下部）を取り外し地上に降ろす作業を行っていたところ、作業員が誤って別のボルトを溶断してしまったため、下部走行ロッカー（重さ約2トン）が落下し、下敷きになってしまったもの。	30309	4	10～ 29
2015	12	16 ～ 17	平成27年12月4日（金）午後4時頃、海上にある牡蠣の養殖用の筏上において、作業終了後、被災者が筏の側に停めていた船舶の前後に固定していたロープを外したところ、風で船舶が筏から離れ、被災者が船舶を掴もうとした際、筏と船舶との間に転落し、約1時間20分後に心肺停止の状態で見つかったが死亡したもの。	70209	10	1～9
2015	3	10 ～ 11	河川災害復旧工事の現場事務所前の除雪作業を1人で行っていたところ、資材小屋に使用していたプレハブの小屋（幅約3.5メートル、奥行き約1.8メートル、高さ約2.5メートル）が突風により倒れ、その下敷きになった。	30107	5	10～ 29
2015	8	21 ～ 22	被災者は、警備員として勤務中、本来の勤務場所から離れた箇所である中劇場2階客席間の移動壁の縦穴（深さ約3メートル、幅約46センチメートル）から墜落して被災した。（どういった理由で当該場所に立ち入ったのかは不明）被災直後に被災者は自らPHSで会社に連絡し、別の労働者によって発見・救出された。	170201	1	1000 ～ 9999
2015	3	11 ～ 12	被災者は、室内にある高さ2.15メートルの喫煙ボックスの上に職長と共に鋼製足場板を1枚ずつ敷き、その上に乗り部屋の天井に部材を取り付ける作業をしていたところ、何らかの原因で鋼製足場板から足を踏み外し、墜落した。	30203	1	1～9
			高さ約3.4mのラックの上に乗って、パレットの上に乗せた荷を			

2015	4	16 ～ 17	フォークリフトから作業員2人でラックの上の上に敷いた平板の上に引っ張りこんだ後、ラックの上移動していた際に、バランスを崩してラックから墜落したもの。	40301	1	10～ 29
2014	2	8 ～ 9	被災者は、同僚とプールサイドに落ちた鳥の糞をデッキブラシで落とす清掃作業を行っていた。楕円状のプールサイドを左右に分かれて清掃を開始し約8分経過後、プールで釣りをしていた客が、うつ伏せになって水面に浮いている被災者を発見した。水深はプールサイド付近で1メートル、発見された箇所は1.3メートルであった。	150109	10	10～ 29
2014	2	15 ～ 16	ワイヤーメッシュ（2メートル×4メートル、50枚、1.775トン）を25トンラフタークレーンで吊り、作業構台に載せたところ、作業構台がたわみ、被災者がクレーンの躯体側ワイヤーを外し、次いで外側のワイヤーを外そうとして作業構台を1、2歩歩いたところ、作業構台を支えていたクランプが外れ、被災者が墜落した。	30201	1	10～ 29
2014	2	15 ～ 16	橋脚に構築した足場上にて、橋桁と橋桁の間にある既設の非排水材（幅約0.6m×長さ約12.75m×高さ約0.39m 154kg／1平方メートル）の撤去作業を行っていた際、止水ゴム及び支持金具（耐荷重180kg／1平方メートル）を取り外したところ、非排水材が落下し、被災者が非排水材の下敷きとなった。	30105	5	30～ 49
2014	3	13 ～ 14	3階に設置された壁型わく材をクレーンで吊り上げ、4階外壁に建て込もうとしたところ、4階に設置していた壁型わく材に接触し、4階の壁型わく材が落下。約3m下の足場上で、吊り上げた壁型わく材を固定していた角材を壁から外していた被災者に接触し、パネルとともに約4m墜落した。	30201	4	1～9
2014	5	9 ～ 10	沖合の海底土質調査用に単管とアルミ製足場板とでボーリング掘進の櫓を組立て、ボーリング準備のため、櫓のステージに被災者ら3名が上がっていたところ、櫓が傾き、ステージに上がっていた被災者らもろとも海中に倒壊。被災者ら3名は海中に投げ出され、2名は間もな	170209	5	1～9

			く浮上し、１名は死亡した。			
2014	6	9 ～ 10	古紙をプレス機（圧縮機）で固める作業中、被災者はホッパー投入口でホッパー内に貼り付いた古紙を竹箒で剥がしていたところ、停止していたベルトコンベアが動き出し、ホッパーへ転落し、プレス機（圧縮機）内で全身を挟まれた。	80109	1	10～ 29
2014	6	15 ～ 16	倉庫内で作業をしていた同僚が、物が落ちたような音を聞き、確認に行ったところ、倉庫内で棚に置かれている荷の品番と在庫数を確認する在庫管理を行っていた被災者が、床に倒れているのを発見した。	80401	1	10～ 29
2014	7	23 ～ 24	土砂をベルトコンベアにより排出し、鉛直方向に固定したコルゲートパイプを通し、約６m下方の床付面に設置したベルトコンベアに自然落下させていた際、コルゲートパイプに土砂が詰まり、被災者が詰まった土砂を取り除いていたところ、コルゲートパイプが抜け落ち、被災者に激突した。	30106	4	10～ 29
2014	7	18 ～ 19	冷蔵庫内に廃棄するハマグリを運び入れていた被災者が、冷蔵庫のドアに頸部を挟まれている状態で発見された。	80109	7	10～ 29
2014	7	14 ～ 15	型枠のリムを足掛かりに高さ１．５mまで上り、高さ３．５mの砂防擁壁の型枠の脱型終了後、下流方向に移動していたところ、地上に置かれていた鋼製型枠に顔を打ち付け、転倒した。	30107	1	10～ 29
2014	8	14 ～ 15	ケーブルテレビ線からのアース線の接地作業中、被災者が電柱上でアース線の取付作業を行っていたところ、高さ６．５mの柱上から地面に墜落した。	30301	1	1～9
2014	9	11 ～ 12	アパート（３階建）の屋上にて、携帯電話の配線、端末設置作業中、屋上から３階へ下りた際、昇降ステップより墜落。３階腰壁の手すり（屋上から２．３m下）にぶつかり、６．９m下の１階の敷石床に激突した。尚、被災者は作業着、安全帽、滑り止めの作業靴、ハーネス型の安全帯を着用していた。	30301	1	1～9

2013	12	16 ～ 17	被災者は、高さ約１３メートルの法面にて、落石防護網の設置作業を行っていた。法面に立てられたＨ鋼に、取り付けていた水平方向の単管に足をかけて作業を行っていたところ、単管が下方向にずれ、被災者は１３メートル下の地上に墜落した。	30199	1	1～9
2013	12	13 ～ 14	剪定を行うため、高さ３ｍの藤棚に登って作業を行っていたところ、誤って墜落した。尚、目撃者おらず詳細は不明である。また、安全帯は着用していたが使用しておらず、ヘルメットも着用していなかった。	140302	1	10～ 29
2013	1	8 ～ 9	本社建物において、正面玄関脇で床面の清掃していた清掃員が、ドンという音を聞いたため、音のした場所に行ったところ、建物東面に設けられた非常用バルコニーの直下から北西に２メートル離れた位置で地面に倒れている被災者を発見した。被災者は、発見された直後に病院に搬送されたが、死亡した。	30203	1	100 ～ 299
2013	6	21 ～ 22	駐車場内において、被災者は門扉の鍵を施錠するため自転車で移動したところ転倒し、頭部を強く打った。その後、別の者から発見され、病院に搬送されたが死亡した。	170201	2	300 ～ 499
2013	6	10 ～ 11	設備機械の保全業務に従事する被災者が、工場敷地内の送紛室前（屋外）において、建屋前の車止めの上に背中の一部をのせる格好で仰向けで倒れているところを発見された。	10104	2	1001 ～ 9999
2013	8	11 ～ 12	被災者と事業主の２名は、地質調査の目的で使用したボーリングマシン（高さ約１１メートル）のやぐらを解体するため、２名でやぐらを構成する単管に乗り、やぐら上部の解体を開始した。事業主が先に地上に降りて、やぐら上部で被災者が一人で作業を行っていたところ、被災者は高さ約９メートルの位置から地面に墜落した。	170209	1	1～9
2012	1	17 ～ 18	マンション建築工事現場にて、当日予定分のコンクリート基礎杭の打設作業が終了し、打設作業で使用した機械設備（コンクリート製造用プラント）の後片付けを行っていた被災者は、同機械設備と杭打機との間の地面で、頭から血を流して仰向けに倒れていたところを同僚労	30201	1	10～ 29

			働者に発見された。			
2012	2	9 ～ 10	被災者は大根棚（竹製の柱で組まれた三角やぐら）の上に乗し、干し大根の収穫作業に従事していたところ、誤って大根棚の7段目（高さ約2.9m）から畑上に転落し、救急搬送先の病院で死亡した。	60101	1	1～9
2012	9	15 ～ 16	ベルトコンベアの架台の側面（鉄骨製高さ2.6m、長さ9.3m）を解体する作業中、この側面が倒壊し、その下敷きとなり死亡した。なお、被災者は、ベルトコンベア架台の端の上部をガス切断機により切断作業を行っていたところ、側面がぐらついたことにより飛び降りた。そこへ側面が倒れ、下にあった別の鋼材と倒れてきた側面の鋼材に挟まれた。	11209	5	1～9
2012	4	14 ～ 15	船舶引揚用斜路の改修工事において、海中の土のう（1t）にクレーンで吊り上げる際の目印（トラロープ）をくくり付ける作業中、潜水業務（水深約3m、斜路からの目測約2mの位置、ボンベを使用）を行っていた被災者が溺死した。なお、ボンベ内の空気は十分残っており、給気の作動も異常はなかった。また、ウエイトベルトは海中に落ちていた。	30111	10	1～9
2012	10	9 ～ 10	船体ブロックの組立作業中、センターガーダー（中心骨材、重量約1.5t）を溶接する準備のため、ピースを溶接取付けし、油圧ジャッキによりセンターガーダーを船体ブロックの壁面に押し付けていたところ、センターガーダーが作業中の被災者の方向へ倒れ、被災者はセンターガーダーの下敷きとなった。	11501	5	10～ 29
2012	10	13 ～ 14	貯水池モーター修繕工事にあたり、作業員4名がクレーン搬入路造成のため、法面に土嚢を積む作業を行っていた。コンクリート地面に土嚢を5段、階段状に積み重ねた箇所（コンクリート地面からの高さ約4m）で、被災者がドラグショベルで運ばれた土砂を土嚢間に詰める作業を行っていたところ、誤ってバランスを崩してコンクリート地面まで転がり落ち、さらに約6m下の貯水池に転落した。	30106	1	1～9
			被災者は可搬式作業台（高さ約2m）の上で中腰の状態で電線管に墨付			

2012	11	15 ～ 16	けを行い、可搬式作業台の上でしゃがんで右に体をひねるようにして、横で控えていた作業員に墨付けをした電線管を手渡した後、バランスを崩し当該可搬式作業台から転落した。	30301	1	10～ 29
2012	3	16 ～ 17	木造二階建住宅を解体する工事にて、飛散防止のネットを取り付ける単管を格子状に三層で組み立てる作業中、被災者は、二層目の単管上（高さ約4m）に立って三層目の単管を取り付けようとした際にバランスを崩し、地面まで墜落し、死亡した。	30209	1	10～ 29
2012	4	16 ～ 17	3階建て鉄骨S造の屋上防水工事の施工中、被災者はトイレに行くため建物壁面に沿って設置されていた資材揚げおろしのための構造物（足場部材および電動ウィンチにより構成される）をつたって降りようとしたところ、高さ約9mの位置から足を踏み外して落下した。	30201	1	1～9
2011	3	8 ～ 9	船体の船底部組立作業において、被災者はストッパー間に立てたトランスブラケットに発生したひずみをガスで調整する作業を行っていたところ、トランスブラケットが倒れ、被災者の頭部を直撃したもの。	11501	6	300 ～
2011	5	10 ～ 11	被災者は牡蠣の殻を剥く作業台の上に乗し、2.8トンの天井クレーンで吊ったスチール製のかごの底を開いて、作業台に牡蠣を置いた後、作業台から降りようとしたところ、足を滑らせ、高さ1.27mより墜落し、コンクリート床で頭部を打撲し、30日未明に死亡したものの。	10102	1	10～ 29
2011	7	17 ～ 18	災害発生当日、道路工事現場で土砂の運搬作業を終えて、事業場に帰着した被災者が、事務所から同一敷地内に止めていた会社所有の2トントラックに向かう途中で、突然コンクリート製の地面に倒れた。その後、医療機関に搬送され療養していたが、外傷性脳出血により7月21日に死亡した。	40301	2	1～9
2011	2	16 ～ 17	マンション新築工事の地中梁圧接作業の補助をしていた労働者が、高さ3.4メートルの配筋された鉄筋上から墜落したものの。	30201	1	1～9

2011	7	16 ～ 17	型枠支保工の解体作業中、解体した型枠材を3 m上のスラブ上に荷上げしていたところ、スラブ上で部材の受取り作業をしていた被災者が約8 m下の地面上に墜落したもの。荷上げ作業は2人で1班、上下に別れて手渡しで部材の受け渡しを行うというもので、スラブ上には親綱が設置されていた。被災者は安全帯は装着していたが、災害時は親綱に安全帯を掛けていなかった。	30102	1	1～9
2011	8	9 ～ 10	被災者が地上から約1.8 mの深さ付近の掘削溝で、手堀りにより掘削作業を行っていたところ、被災者背後の掘削面が崩壊するとともに、歩道の縁石が崩壊し、被災者頭部が崩壊した縁石と掘削面に挟まれたもの。	30110	5	1～9
2011	5	19 ～ 20	被災者が廃液を処理する生物処理槽等の巡回をしていたところ、処理槽上部の蓋板に載った時に、蓋板が傾き外れたため、蓋板とともに深さ4.15メートルの処理槽に墜落した。処理槽内は槽の下部より送気することで、曝気していることから、廃液が激しく回転して流れている。	11409	1	100 ～ 299
2011	11	9 ～ 10	廃棄物処理取引先の工場の出入口において、レールの上に乗っている工場の鉄製の扉を閉めようとしたところ、閉める扉を間違えて、手前にある短いレールに乗っている扉（高さ4.27 m、幅2.44 m、重量350 kg）を奥まで動かそうと勢いをつけて押したため、上部に取り付いているストッパーを破損し、当該扉がレールから外れ倒壊し、それを支えようとして当該扉の下敷きとなった。	150102	5	50～ 99
2011	10	10 ～ 11	マンション建築工事における、基礎工事中に発生した災害。被災者は、深さ約1.9 mに掘削された箇所の清掃作業を一旦終え、休憩のため地上に上がろうと、地面に手をかけ、柱鉄筋の上端に足を乗せて掘削箇所から直接地上に上がろうとしたところ、何らかの理由で足を滑らせ、柱鉄筋に右太ももを刺し貫かれ死亡したもの。	30201	2	1～9
			下水道管敷設工事において、道路を横断するように埋設されていたカルバートボックスのベースコンクリート下方にて、人力による床付け			

2011	10	10 ～ 11	作業を行っていたところ、ベースコンクリートが損壊して被災者に落下した。被災者は倒れるとともに、覆いかぶさった当該ベースコンクリート（131×61×9cm）により身動きがとれず、被災者の足元に溜まっていた水により溺死したものである。	30110	4	1～9
2010	12	9 ～ 10	マンションの敷地内に設置された地上4段方式の立体駐車場の解体工事現場において、被災者は立体駐車場の4段目の位置（高さ5.9m）にあったパレット（駐車用の鉄板、幅2.1m、長さ4.5m、重量約500kg）上において解体作業を行っていたところ、被災者が動力伝導用チェーンの連結ピンを外したことにより、つり上げられていた当該パレットが落下し、被災者も一緒に墜落した。	30309	1	1～9
2010	12	13 ～ 14	作業船上において、空港滑走路の海中部分を水中カメラで撮影中、水中カメラを船体左舷の海中に固定するために甲板上に艀装された鉄骨架台と、滑走路の支柱部分とが接触した。このときの衝撃で、鉄骨架台が緊結不足により甲板上から外れて水没し、その際に甲板上の鉄骨架台付近で、通常のカメラによる写真撮影をしていた被災者が、当該鉄骨架台と船べりに胴体をはさまれ死亡した。	120109	7	100 ～ 299
2010	11	10 ～ 11	解体工事現場の搬出入口舗道上において、車道側を向いて立哨中の被災者の後部に位置していた鋼製門扉（幅4.5m、現場囲いのためシートが張られていたもの）が、突風が吹いた際に倒れてきて下敷きになったもの。	170201	5	30～ 49
2010	10	11 ～ 12	雨水管理設工事現場において、被災者は深さ4mの掘削場所でヒューム管（φ700mm）設置高さを調節していたところ、湧水により地盤が緩んでいたことから、土留めに使用していたコンクリートブロック（高さ66cm、縦50cm、横147cm、重量約1.1t）が崩れ、被災者が下敷きとなり、頭部骨折により死亡した。	30199	5	10～ 29
			堰堤のコンクリート打設のため、施工中の堰堤の天場にやぐらを組み、チェーンブロック2個を用いて、2回目のコンクリート打設に使			

2010	9	10 ～ 11	用した鋼製型枠を3回目の打設場所に引き上げる作業を行っていた。 鋼製型枠を約1.3m持ち上げたとき、やぐらがねじれて偏荷重が生じたため固定に使用した番線が切断し、支柱が壊れた。この際、チェンブロックを掛けていた角鋼管（断面6×6cm、長さ3m）が外れ、堰堤の下部で作業していた被災者に激突した。	30108	5	10～ 29
2010	8	10 ～ 11	通常砂防工事において、パッドウォール・ライナーを型枠として、砂防ダムを構築していた。砂防ダム内側にコンクリートを高さ1.5mまで打設し、打設位置を変えるため、打設を停止した。砂防ダム外側の釜場に設置した水中ポンプが停止したため、被災者2名が状況を確認するため、釜場まで降りたところ、パッドウォールの施工不良やコンクリート打設速度の不適切のため型枠の一部が崩壊し、釜場にコンクリートが流れ込んだ。この際、1名がコンクリート内に沈んで死亡し、もう1名は胸まで浸かり負傷した。	30108	5	1～9
2010	8	6 ～ 7	橋げた（コンクリート製）の製造工程において、型枠1枚（高さ140cm、長さ300cm、重さ620kg）を、天井クレーン（つり上げ荷重15t）を使用して取り外す準備のため、型枠を固定していたクランプ（6か所のうち4か所）を取り外そうとしたが、全て（6か所）を取り外してしまったため型枠が倒れ、被災者が型枠の下敷きになってしまったもの。	10901	5	1～9
2010	8	9 ～ 10	配達先の敷地内において、被災者がコンテナ内に商品を納品しようとバネ付きフック2個を外し、ワイヤーを引っ張り金属製の扉を1人で開けたところ、当該扉（高さ2.13m、幅2.08m、厚さ0.07m）の下敷きになり死亡したもの。	80109	7	1～9
2010	6	11 ～ 12	水槽内部の木材を確認するため、水槽上部に上がり、幅の狭い縁（高さ1.56m）を歩いていた際、水槽の縁から転落し、頭部を床面に打ちつけ死亡した。保護具等を着用していなかった。	10402	1	1～9
		16	木造家屋解体工事現場において、単管とクランプで飛散防止養生枠を組立て作業中、2層目にいた被災者は、単管を持ったままバランスを			

2010	5	～	崩し、直下のコンクリート土間へ約4 m墜落し、頭部を負傷した。その後被災者は10日後に、収容先の病院で死亡した。作業床を設けておらず、安全帯を使用していなかった。	30202	1	10～ 29
2010	5	～	17 婦人バッグ等の製造卸しを営む事業場の倉庫において、クロスサポーターにより積み上げていた段ボール入りの商品を取ろうとして、被災者がコンテナをよじ登っていたところ、足を滑らせ墜落した。	80109	1	30～ 49
2010	4	～	14 被災者は、雨よけのために設けられた軒状に張り出したテント地で出来た屋根（高さ5.6 m）のふち付近から、転落したものと推測される。災害の現認者もなく、災害時の作業内容等は不明である。墜落防止措置を講じず、安全帯等も使用していなかった。	170209	1	1～9
2010	4	～	15 民家の解体工事において、近隣への飛散防止のための養生シートを設置するにあたり、養生シート設置用の骨組みを丸太足場の部材で作成し組み立てていたところ、約4 m下の地上に墜落したもの。骨組みの壁つなぎを民家に固定する時、当該壁つなぎに足をかけた際に壁つなぎが破損したとみられる。	30202	1	1～9
2010	4	～	15 4階建てビルの屋上に設置してある広告塔撤去工事において、被災者がワイヤロープを持ち広告塔の周囲に設置した丸太足場の養生シートの外側に出ていたところ、強風の影響もあってバランスを崩し、9.9 m下の線路脇に墜落した。その際、ワイヤロープが架線に接触したためショートし、「ドン！」という音とともにスパークしたもの。	30209	1	10～ 29
2010	3	～	9 コミュニティセンターのホールで、ステージに祭壇を設置する作業を6人で行っていた時、被災者は祭壇の2段目、同僚が3段目で幕を取り付けていたところ、被災者がバランスを崩して転倒し、ステージ下まで1.3 m墜落した。救急車で病院に搬送されたが死亡した。	170209	1	10～ 29
		9	穀類乾燥施設増設工事で被災者らはサイロ用昇降機の水平垂直位置調整作業に従事。被災者は位置調整ため昇降機の上部振れ止め（仮止め）鉄骨材の固定ボルトを緩めるため昇降機側面の補強材（角パイ			

2010	3	～	プ)を梯子代わりに昇って行き、下部振れ止めの水平鉄骨材に手を掛けたところ、ボルトが別の鳶工により取り外されていたため鉄骨材とともに約7.0m下のコンクリート床面に墜落したもの。昇降用安全親綱等(ロリップ等)の設置は無かった。	30209	1	1～9
2010	2	9 ～ 10	ボックスカルバート製造用の型枠の解体作業中、側面の型枠が倒れ、被災者がその下敷きとなったもの。	10901	5	1～9
2010	1	16 ～ 17	R C造2階建の個人住宅新築工事において、2次下請所属の型枠大工3名で型枠建込作業を行っていたところ、浴室で1名で作業を行っていた被災者が、壁際の地面から垂直に設置された鉄筋(直径1cm、長さ67cm、鉄筋先端部が養生されていなかった)の先端部13cmが後頭部に刺さり、地面に座り込んだ状態で、他の場所で作業を行っていた作業員に発見され、約18時間後に死亡したものである。	30209	99	1～9
2009	3	12 ～ 13	電話通信設備の修理作業を行うため電柱に昇り高さ約5mの箇所です安全帯をかけようとして誤って墜落した。	110101	1	10～ 29
2009	1	15 ～ 16	被災者は、個人宅のガス配管の取替工事において、高さ約1.4mの脚立に昇り、軒上のガス配管を取り付ける作業を行っていたが、当該作業が終了したため、当該脚立から降りようとしていたところ、当該脚立が倒れてコンクリートの地面に転落し、身体を強打した。	30203	1	50～ 99
2009	2	14 ～ 15	事業場施設設備系の被災者を含み3人で、事業場敷地内にある発電室内の間仕切り用のコンクリートブロック壁高さ約4.7mのうち、床面から高さ約2.3mまでの部分を解体撤去する作業において、解体撤去がほぼ終了したあと、当該コンクリートブロック壁の上部の残存部分が落下し、下で作業をしていた被災者が落下したコンクリートブロック壁の下敷きになった。	140309	4	50～ 99
			被災者は、木造2階建ての個人住宅新築工事現場において、2階の階段			

2009	8	11 ～ 12	手すりに長さ2.5m、幅19.5cm、厚さ3.5cmの木製の足場板を置き、固定していない状態の当該足場板に座って塗装用ローラーで内部階段の側壁の塗装作業を行っていたところ、足場板上から2.725m下の階段踊り場に墜落した。	30309	1	1～9
2009	9	14 ～ 15	被災者は、作業員Aと2人でボックスカルバート内部への土砂の進入を防ぐため、出入口を鉄板（縦3m、横1.5m、重量800kg）で塞ぐ作業を行っていた。作業員Aがドラグ・ショベルを操作して、鉄板をワイヤロープでつり下ろし、被災者が鉄板を支える木板を取り付けワイヤロープを鉄板から外そうとしたところ、鉄板が被災者の方に倒れ、鉄板とトン袋（土嚢）との間にはさまれた。	30106	5	1～9
2009	6	14 ～ 15	事業場内において細砂運搬用のベルトコンベヤーを解体するため、同コンベヤー上で作業員2人がガス溶断の作業を行っていたところ、同コンベヤーの支柱が倒壊し、作業員2人がおよそ8.5m下に墜落した。	10909	1	10～ 29
2009	1	10 ～ 11	個人住宅新築工事現場において、現場に電線を引き込むため仮設の電柱を設置する作業中、被災者が車（ワンボックス）屋根上から仮設電柱（長さ5m、伸縮型、鉄製30kg）を降ろそうと、車の踏み台に足をかけたところ、足を踏み外し転倒、その際、車の屋根部分から落下してきた仮設電柱に激突された。	30202	4	1～9
2009	9	10 ～ 11	地下1階、地上6階建のS造建築物新築工事現場において、仮設作業構台の組立作業中、コンクリート土間に敷桁を設置し、その上に3本の支柱を順にクレーンでつり上げ脚部を敷桁にボルト固定する作業を行っていた際、3本目の支柱を固定し終わり、つり上げていた玉掛けを取り外したところ支柱3本が敷桁ごと倒壊し、付近で作業を行っていた被災者が支柱の下敷きになった。	30201	5	1～9
2009	8	8 ～ 9	型枠解体作業の段取りをしていた被災者が、仮設照明が点かないため分電盤を確認に行き作業場所に戻る際、通路を通らず近道しようと転落防止柵を乗り越え、外部足場の妻側の端に足をかけてよじ登り、庇に移ろうとしてバランスを崩し、高さ3.2mの箇所からコンクリートの	30201	1	1～9

			地面に墜落した。			
2009	1	8 ～ 9	側溝に詰まった雪の除去作業中、上流側でせき止められていた水が急に激しい勢いで流れ出し、下流側の側溝の中で雪等を除去していた被災者が流された。30m下流で救出されたが、意識不明のまま後日死亡した。	30199	10	10～ 29
2009	10	13 ～ 14	被災者は朝から協力会社の資材センターで産業廃棄物の運び出し及び清掃作業等を行っていた。昼食後は物置等に使用されているコンテナの屋根に底を付ける作業を行うため、当該コンテナの屋根（高さ約2.4m）に上り、コンパネを運んでいたところ、コンパネとともに地上まで墜落した。被災者はヘルメットを被っていなかった。	30199	1	1～9
2009	8	14 ～ 15	被災者は、木造2階建個人住宅外壁塗装工事現場において、午後の休憩の後、屋根の破風板の塗装作業を行うため、塗料缶を片手に持ち、住宅西側に設置の枠組足場（3層6スパン、高さ5.12m）の昇降階段を昇る途中、3層目の手前でバランスを崩し、昇降階段から4.35m下の地面に墜落、死亡した。昇降階段には、手すり及び交差筋かいはなく、足場には墜落防止措置が講じられていない箇所が認められた。	30209	1	1～9
2009	5	14 ～ 15	被災者が1人で水道管メーターの交換作業のため、スコップで地面（縦95cm、横80cm、深さ105cm）を掘っていたところ、隣にあったホームタンク（容量490リットル）が倒れて、掘った穴との間にはさまれた。	30199	5	1～9
2008	12	11 ～ 12	被災者は、同僚3名と会社資材置場の土場にてウイング車荷台のあおり部分をウイング部を上にあげて丸太3本で支えた状態で解体していたところ、丸太が外れたためウイング部が閉った。その際にウイング部が被災者に激突して死亡した。	30199	6	10～ 29
2008	2	11 ～	谷止工事現場において、被災者を含めた3名で工事に伴い伐採した風倒木（杉立木）を車両積載形トラックに積み込み、現場からの搬出作業を行っていた。被災者は、荷台側で玉掛け作業等を担当していた。その際、クレーンの荷台から後ろ向きにタラップを伝い地上に降りた	30108	1	10～

		12	時、そのまま後退し、後ろ向きのまま道路の端から川底（高さ約2m）に転落した。クレーンから被災者が転落した道路端までの距離は1.8mであった。			29
2008	4	10 ～ 11	被災者は、客先の工場棟の屋上でペントハウス上に設置されている貯水槽の清掃作業を同僚1名と行なっていた。その際、当該貯水槽付近から約4m下の屋上床面に墜落して死亡した。なお、同僚は被災状況を見おらず、被災者が墜落直前にいた位置は不明である。	150102	1	30～ 49
2008	2	17 ～ 18	岸壁に客船が着岸したので係船のためにロープを岸壁の係留ビットにかける作業をしていた。その際、岸壁から約1.5m下の海面に転落して死亡した。	170209	10	30～ 49
2008	7	16 ～ 17	個人住宅の敷地内にあるボイラー室の解体工事において、高さ245cmのボイラー南壁の高さ107cmから上部の壁を解体するためにサンダーで切り込みを入れ、チッパーではつり作業をしていた。その際、高さ（107cm）から上の南壁全面が北側に倒れてきたため、北側で作業をしていた3名にあたって負傷して1名が死亡した。	30209	5	1～9
2008	3	14 ～ 15	記念公園に併設されている遊園地において、ファミリーフィンガーという遊戯機械の1ヶ月点検で出張点検作業にあたっていた被災者が、支柱と上下するシリンダーにはさまれた。	140309	7	10～ 29
2008	6	13 ～ 14	アパート脇の立木の枝切りり及び下草除去作業で発生した枝葉の搬出作業中、作業場所付近に設置されていたフェンスごと約2.75m下のアパート駐車場に墜落した。	60101	1	1～9
2008	1	11 ～ 12	被災者は、電線の地中化に伴う引込み線の変更工事において、当該引込み線の取付作業のため、装着した「柱上安全帯」の主フック側を電柱に巻いて、当該電柱を登っていた。途中でケーブルテレビのBOXがある腕金をかわすため、同安全帯の補助フックを腕金のバンド締付けの金属棒にかけて主フックを外し、腕金を越えようとしたところ、手を滑らし、約7m下の道路面に墜落して死亡した。	30301	1	50～ 99

2008	7	13 ～ 14	花火大会で使用する一般客観覧用の観覧船設置作業において、砂利運搬船を陸地に接続して固定して同船の上面に単管及びコンパネ等を組上げ、その上部にごさを敷き詰め栈敷を作る作業を行っていた。被災者は、栈敷に設けた手すり上栈をまたいだ状態で中栈に両足を置き、高さ2.26mの建地単管の上部にクランプを取り付けていた際、バランスを崩して川に転落した。なお、被災者は、救命胴衣を着用していなかった。	30199	10	10～ 29
2008	7	17 ～ 18	掘削作業終了後、翌日の準備作業としてドラグ・ショベルのラジエーター補助タンクに冷却水を給水しに戻ったところ、掘削箇所に残ったレベルコンクリートの一部（長さ1.3m、幅0.5m、厚さ0.1mのほぼ三角形形状で、約75kg）が崩落して被災者が下敷きとなった。	30201	4	1～9
2008	1	11 ～ 12	電線の引込み線の切断作業中、電柱を登って手持ちグラインダーで線及び電柱に取り付けられているベルトを切断していたところ、足場を踏み外して高さ約5mの箇所から墜落して死亡した。	30309	1	1～9
2007	12	9 ～ 10	病院玄関前の天板清掃のため、天板を支えるパイプ上に足場を組む作業中に、高さ4.5mのパイプ上から墜落した。	150101	1	100 ～ 299
2007	10	11 ～ 12	住宅解体工事現場において、グラップルによりトタン屋根を解体する作業中、農道において監視人をしていた被災者が農道上で倒れているのが発見された。ヘルメットは側に落ちていた。	30202	1	1～9
2007	6	13 ～ 14	ゴルフ練習場の玉洗い場の解体工事の現場において、被災者が、フェンスのたる木を金づちでたたいて取り外し中に、前の用水路（深さ約1.3m）に転落した。	30309	1	1～9
2007	10	9 ～ 10	防波堤築造工事において、消波ブロック（16tのテトラポット）の据付作業のため、支障となっていた据付済の消波ブロックの位置の修正作業を行っていた。3つめの据付済みの消波ブロックを移動式クレーンでつり上げ、位置を修正しようとしたところ、その周囲の消波ブロックが動き、その上に乗っていた被災者は、バランスを崩して当	30111	5	1～9

			該ブロックから転落し、既設の消波ブロックに激突した。			
2007	11	15 ～ 16	軽量鉄骨 2 階建て建物の外壁塗装を行うため、丸太だき足場上で屋根ハチマキ部のケレン作業を行っていたところ、4. 7 m 下のコンクリート地面に墜落した。	30201	1	1～9
2007	10	12 ～ 13	建物解体作業中、隣地の駐車場との間の養生シートばらし作業のため、最上段（高さ 4. 6 8 m の位置にある）の単管（長さ 1 7 5 c m、径 5 c m）を取り外そうとして、建地に取り付けられた昇降用タラップに足をかけていたところ、バランスを崩し約 3 m 下のコンクリート上へ墜落した。	30209	1	10～ 29
2007	12	12 ～ 13	ビル改修工事現場にて、窓に貼った目張りシールを撤去中に、4 階ベランダから墜落した。	30209	1	1～9
2007	12	2 ～ 3	外壁材の混合作業のための作業ステージ上（高さ約 2. 6 m）で、材料荷揚げ口のスライド式安全柵を閉めようとしていたところ、安全柵ごと地面に墜落した。	10904	1	300 ～ 499
2007	7	23 ～ 24	事業場の駐車場から高さ約 1 7 m 下の河川において、死亡していた被災者が発見された。被災者は、バケツの中にある花火の廃水を、当該駐車場から河川に捨てようとした際、手すり等が無かったため誤って墜落した。	140101	1	30～ 49
2007	5	9 ～ 10	酸を含んだ水を中和するためのタンク（中和槽）の周囲一側面に高さ 1. 5 m の金網が設けられており、被災者がその金網の内側（タンク側）に倒れているのを同僚が発見した。バルブ操作のために金網を乗り越えようとしてコンクリート製のタンク基礎に墜落した。	10909	1	100 ～ 299
2007	7	8 ～ 9	盆踊り用の舞台を設置する作業において、組立中のやぐら（高さ約 2. 4 m）に乗り作業を行っていたところ墜落した。	30309	1	1～9
		23	2 階のトイレにおいて、被災者が仰向けに倒れているところを発見さ			100

2007	4	～ 24	れた。	170209	2	～ 299
2007	9	～ 11	被災者は、水銀灯増設工事に伴い建物から既設の水銀灯への引込電線（地上から8 mの位置にあった）を取り外すため、2階ベランダに脚立を設置し、ベランダ手摺りと脚立に足を掛けて電線を取り外した直後に墜落し、アスファルト舗装の地面に激突した。なお、保護帽は着用していなかった。	30301	1	10～ 29
2007	1	～ 10	生コン工場の機械設備等解体工事において高さ5.78 mのミキシング室のブラケット張り出し足場の上に設置された操作室の解体をガス切断で行っていた時に、被災者と反対側のブラケットがはずれ落下し、その反動で被災者側の網鋼板が持ち上がり、作業床から墜落した。なお、被災者は安全帯を着用していたが、使用していなかった。	30209	1	1～9
2006	8	15 ～ 16	ステージセットの解体作業中、当該ステージ上、高さ約13メートルの位置にある作業床開口部から墜落した。	100109	1	1～9
2006	11	～ 14	工事完了検査を行うことから、被災者は法面に残っていた測量のためのナイロンロープ2本を撤去するため、勾配約50度の法面を下りていたところ足を滑らし、法長31.2 m下の林道に転落した。	30106	1	1～9
2006	9	～ 11	事業主がドラグ・ショベルを運転して堆肥を堆肥散布機に積み込む作業を、被災者は数10 m離れた場所でこぼれた堆肥をスコップで片付ける作業をしていた。事業主は、次の作業のため堆肥の山の端に鋼板（6 m×1.5 m、重量1.6 トン）を設置し、バケットを鋼板から30センチ離れた位置に止めた後、数分間その場所を離れたが、戻ってきた時に、被災者が鋼板とバケットの間に挟まれているのを発見した。	60101	5	1～9
2006	8	19 ～	工場壁面の換気扇のシャッターを閉じるため、ピット（最大深さ185 cm、幅122 cm）の上に載ったコンパネ（厚さ3 cm）の上を通り渡ろうとした時、コンパネが中央部より割れ、被災者とともに落	11701	9	10～ 29

		20	下した。			
2006	6	10 ～ 11	被災者は線路敷地内において、合計7人にて草刈作業を行っていた。 被災者は線路脇の片付けを行っていたが、休憩に入り、各自個別に持ち場を離れて休憩をしていたところ、被災者が下におりようとして翼壁上を歩き、高さ6mの地点から墜落した。	30199	1	1～9
2006	6	9 ～ 10	アパートの新築工事に付帯する駐車場の造成工事で、RC基礎を設けるためドラグ・ショベルによる掘削作業の近くで測量を行っていたところ、盛土された法の端から2.4m下の隣地に転落した。	30201	1	1～9
2006	6	13 ～ 14	電柱に取り付けられた1段目の足場ボルト（電柱を昇降するためのステップ）上で、2段目の足場ボルトの取付け作業中、被災者が安全帯のフックをD環でなく、工具等を吊り下げるためのカラビナに取り付けていたことから、カラビナの安全帯への取付部分（クリップ）が破損し、高さ約2.5メートル下に墜落した。	30301	1	30～ 49
2006	2	7 ～ 8	事業場内の敷地内にある10t湯タンクにおいて、被災者がタンク点検口のふたを開け、タンク内の湯の温度を測定しようとした際に当該点検口から落ちた。	140101	10	50～ 99
2006	5	11 ～ 12	被災者は建屋の外壁（腰PC板高さ1.185M、長さ3.2M、幅0.13M、重量1.3t）取付け作業中、PC板を溶接で仮止めした後、PC板の取り付けを行ったが、取付け位置が低かったことから、位置を修正しようと別の作業者が被災者の反対側からバールにて浮かして当て板をその隙間に入れて高さ調整を図っていた時に、仮止めしていた溶接部分が外れたことにより、PC板が被災者側に倒れて挟まれた。	30201	5	1～9
2006	5	16 ～ 17	塩酸タンク周辺の配管補修工事において、被災者は足場（2段目）から塩酸の入ったタンク（高さ4.6m、直径2.2m）の手すりを乗り越え、タンクの上に飛び降りたところ、タンクを踏み抜きタンク内に転落した。塩酸は工場廃水を中和するのに利用されており、タンク	30301	12	10～ 29

			は深さ 2. 2 m まで塩酸が入っていた。			
2006	4	14 ～ 15	電線の撤去作業において、通常は地上で撤去電線を取りまとめる等の地上作業を主として行っていた被災者が、仮設フェンスを越えた箇所で倒れているのが発見された。当初は意識があったが、被災者が不調を訴え病院へ搬送された後死亡した。	30301	1	1～9
2006	3	9 ～ 10	粉砕場の複数のバグフィルター塗装工事において粉砕場北西のフィルターの歩廊（高さ 10 m）と南西のフィルターの歩廊（高さ 9 m）間には通路がなかったが、被災者は北西フィルターの歩廊手すりを乗り越え南西フィルターの歩廊へ渡ろうとした際、10 m 下のコンクリート床に墜落した。	30209	1	10～ 29
2006	3	16 ～ 17	被災者は高さ約 2. 8 m の箇所にある壁のボード貼り作業を単独で行っていたが、離れた場所で作業していた職長が脚立の倒れる音を聞き、当該場所へ行ったところ、地面に脚立とともに被災者が倒れていた。	30201	1	1～9
2006	2	17 ～ 18	仮組みした炉の解体作業を被災者 2 名で行っていた。複数の鉄板で構成された炉を天井部から解体し、残った東側 3 枚（相互にボルトで接合された垂直材及び水平材 1 枚）の水平材を取り外すため、両端から 2 人でボルトの取外しを行っていたが、最後のボルトを外した際に垂直材が 2 名の側に倒れてきたため、下敷きとなり被災した。	11702	5	0
2006	2	8 ～ 9	回収した廃船を修復し再使用するために、操船室の天井部分に設置されていたマスト（全高約 6 メートル）を根元部分で切断し、撤去する業務に補助者として従事していたところ、切断されたマスト（ワイヤロープを掛けて、リフティングマグネット式の重機により上方より繋がれていた）が振れて、それを避けようとした被災者が操船室の天井部分の作業床より約 5 メートル下の台船上に墜落した。	150102	1	1～9
2006	3	22 ～ 23	屋上で懸垂幕の取付け作業終了後に、高さ 1. 38 メートルの懸垂幕取付けフレームより屋上面に墜落した。ヘルメットは着用していなかった。	140309	1	30～ 49

2006	2	15 ～ 16	林道開設工事現場で軽量盛土のエアモルタル打設作業を終え、壁面材付近でエアモルタル圧送ホースの片づけを行っていた際、壁面材及びこれを固定していた支柱が倒壊しエアモルタルとともに流され被災した。	30106	5	10～ 29
2006	2	15 ～ 16	林道開設工事現場で軽量盛土のエアモルタル打設作業を終え、壁面材付近でエアモルタル圧送ホースの片づけを行っていた際、壁面材及びこれを固定していた支柱が倒壊しエアモルタルとともに流され被災した。	30106	5	30～ 49
2005	12	9 ～ 10	道路拡幅工事において、既存のブロック塀をドラグ・ショベルで取り壊し作業を行っていたところ、当該取壊し箇所と繋がったブロック塀近くでフェンスの撤去作業を行っていた被災者の方にブロック塀が倒壊した。	30106	5	1～9
2005	1	5 ～ 6	フェリー乗り場において、フェリーを桟橋に係留するためのロープをビットから外した後、移動しようとして埠頭から海中に落ちた。	40102	10	1～9
2005	4	9 ～ 10	電気の引込線撤去工事において、電柱を登っていく途中、5mの高さから墜落した。	30301	1	10～ 29
2005	4	12 ～ 13	工場構内において、フォークリフトでコイル形状の線材を運搬中、通路上の30cmの段差を進行したところフォークリフトが横転し、運転席から投げ出された作業者がフォークリフトのヘッドガード部の下敷きとなった。	11001	2	100 ～ 299
2005	9	8 ～ 9	銭湯の清掃中に浴槽内に転落し、溺れた。	130301	10	1～9
2005	2	14 ～	湖上に係留中のしゅんせつ船の機関室内部で配管の取替え作業中、被災者が配管のフランジの最後のボルトをガス溶断したところ、当該配	20202	4	10～ 29

		15	管が落下し、配管の下敷きとなった。			
2005	10	14 ～ 15	PC上部工工事において、高さ21mの作業床上にて片付け作業をしていたところ、地面に墜落した。	30105	1	1～9
2005	5	9 ～ 10	河川改修工事現場において、川岸からドラグ・ショベルで持ち上げられた流土防止用柵の鋼材（重さ500kg）が、近くで作業をしていた被災者へ落下した。	30107	4	1～9
2005	1	8 ～ 9	建物解体工事現場において、飛散防止用単管が完了している状態の1階下屋部分で、飛散防止用の養生シートを使用場所へ配付する作業中、安全帯を使用していなかったため、足を滑らせ転落した。	30209	1	1～9
2005	7	10 ～ 11	基礎工事のため掘削された部分の埋戻し作業に関連して、スラブ側に埋戻しの土砂が入り込まないようにするため、ドラグ・ショベルにて鉄板（重さ700kg）をつり込み、これを立てて鉄板が自立したところで玉掛用具を外したところ、当該鉄板が倒れて、これと地山との間に挟まれた。	30201	5	30～ 49
2005	10	17 ～ 18	小学校の2階窓ガラスを清掃中、2階窓より地面に転落した。	150101	1	1～9
2005	1	9 ～ 10	屋外ヤードにて、鉄製架台（重さ550kg）を入荷時の荷姿にするため、2つのうち1つを反転させようとフォークリフトの爪を掛けて立ち上げ、爪を掛けたままバックし、架台をフォーク側に倒そうとしたところ、爪から架台がはずれ、架台を支えていた作業側側に倒れた。	11204	6	50～ 99
2005	3	10 ～ 11	工場の2階にあるロッカーを手で持って1階まで階段を使って下ろす作業中、ロッカーとともに階段を転落し、当該ロッカーの下敷きとなった。	170101	1	1～9
2005	11	14 ～	8トン六脚消波ブロックの据付作業において、消波ブロックの上で据付場所の確認をしていたところ、バランスを崩して海中に転落、波にさ	30111	1	1～9

		15	らわれた。			
2005	1	13 ～ 14	土止め支保工として使用していたH鋼を撤去するためにH鋼の根元をガス溶断していたところ、溶断していたH鋼が被災者の上に倒れてきた。	30201	5	1～9
2005	7	17 ～ 18	製品の乳酸飲料が入っていた熟成タンク(6,000l)の清掃作業中、タンク内で倒れた。	10106	12	10～ 29
2004	11	14 ～ 15	発電所から、変電所に通じている6600Vの送電線に、樹木等の接触、近接がないかの調査を行っていたところ、誤って体のバランスを崩した際に、送電線に接触し感電した。	30301	13	100 ～ 299
2004	12	13 ～ 14	スキー場内において、高さ11mの鉄塔に上り、照明の調整作業終了後、ロープを使用して下へ下りようとしたところ、地面に墜落した。	170209	1	10～ 29
2004	6	15 ～ 16	橋面上において、ワーゲントラスを組立中に、主体トラスに安全帯をかけた状態で横つなぎ梁を組み立てる準備を行っていたところ、主体トラス（2.7t）が倒れ、橋面上から約20.5mの下地盤まで被災者が墜落した。	30105	1	10～ 29
2004	9	8 ～ 9	高さ約11mの、マンションの踊り場付近のパラペットに上り、隣の個人住宅の屋根に異常がないかを確認していたところ、誤って墜落した。	30202	1	10～ 29
2004	6	15 ～ 16	橋脚建築現場の深礎杭施工で、ライナープレート（深さ14m、直径8m）内に設けた鉄筋にコンクリート打設用ブラケット足場を取り付け作業中、ブラケット足場用手すりの溶接をする際、安全帯での身体確保が十分に出来ず、深礎杭底部に墜落した。	30106	1	50～ 99
2004	10	9 ～ 10	コンクリートもたれ擁壁の天端付近において、落石防護柵の基礎の型枠を締め付ける作業等に従事していた作業員2名が、滑り落ちてきた上部擁壁（コンクリートで吹付けられた法面（のりめん））ともたれ擁	30199	5	10～ 29

			壁の天端との間に挟まれた。			
2004	10	9 ～ 10	コンクリートもたれ擁壁の天端付近において、落石防護柵の基礎の型枠を締め付ける作業等に従事していた作業員2名が、滑り落ちてきた上部擁壁（コンクリートで吹付けられた法面（のりめん））ともたれ擁壁の天端との間に挟まれた。	30199	5	10～ 29
2004	10	13 ～ 14	ビルの壁に設置された懸垂幕を、台風に備えて撤去する作業を行っていたところ、地上約19mの高さの塔屋部に設置された懸垂幕取付設備から地上に墜落した。	170209	1	1～9
2004	6	10 ～ 11	工事現場で、雨よけに使用しているプラスチック製の波形板に乗って家の外壁の塗装作業をしている際に、5.6m下の地面に墜落した。	30202	1	1～9
2004	3	8 ～ 9	岸壁において、出品車両の盗難防止のための警備業務を行っていたところ海中に転落した。	170201	10	10～ 29
2004	8	10 ～ 11	鉄骨5階建て、倉庫新築工事において、本柱と本柱との間に間柱および耐風梁を取り付け作業中、地上約30mに設置されていたタラップから墜落した。	30201	1	10～ 29
2004	10	18 ～ 19	店外商品陳列棚の最上部に保管されていた土嚢袋（1束約20kg）を店内売場に移動させようと陳列棚によじ登り、土嚢袋を取り出そうとした際に墜落した。	80209	1	100 ～ 299
2004	5	3 ～ 4	集配業務に使用するプラットフォームから下に転落した。	40301	1	30～ 49
2004	2	6 ～ 7	事業場敷地内の門扉前地面上において被災者が仰向けに倒れていた。	40202	2	10～ 29
			既設橋脚の補強をするためフーチング上にて油圧式コアドリルを使用			

2004	9	17 ～ 18	して杭を打ち込むためのボーリングをしていたところ、コアチューブが回転しなくなったためコアボーリングの削孔管に専用の蓋（コアキャップ8kg）をしてコアキャップの口にコンプレッサーホースを取り付け圧力をかけたところ、コアキャップがはずれ上部にある点検用通路に当たった後、被災者に激突した。	30106	4	1～9
2004	8	13 ～ 14	マンション新築工事現場において、3階部分へのコンクリート打設をするために、その近くの足場へ移ろうと壁用横筋に足をかけて軀（く）体側から渡ろうとしたところ、横筋と縦筋を固定している番線が切れて墜落した。	30201	1	1～9
2004	4	11 ～ 12	葬儀場館内の清掃を行おうと床に洗剤をまき、洗浄機で洗っていたところ、配達先から戻ってきた被災者が洗剤で足を滑らせ転倒した。	170209	2	30～ 49
2004	4	14 ～ 15	砕石プラントにおいて、砕石の搬入、搬出を行うダンプトラックが砕石プラントのベルトコンベア部分に接触するのを防止するための門（高さ約3m）を設置する作業を行っていたところ、門の上で作業していた被災者が墜落した。	10909	1	1～9
2004	11	11 ～ 12	木造建築工事現場においての足場解体作業中、軀（く）体ひさし上にて建地単管を解体し、下で解体した単管パイプを受け取るという作業を2人で行っていたところ、下でパイプを受けていた被災者が足を滑らせ、すぐ脇の擁壁（高さ約3.5m）から道路側へ墜落した。	30202	1	1～9
2004	12	11 ～ 12	木造家屋解体工事現場において、周囲への飛散防止のシート養生をするための骨組みを単管パイプで組立作業中、1段目の水平つなぎの単管パイプ上（高さ1.65m）で2段目の水平つなぎをクランプにて取り付けいていたところ、墜落した。	30202	1	1～9
2004	10	14 ～ 15	汚水処理施設建設工事において、鉄筋組みをしていたところ、鉄筋上に倒れその際に鉄筋（直径13mm）が刺さった。	30201	99	1～9
		14				

2004	10	～ 15	ポンプ場の止水ゲートでアクアラング潜水により流木の除去作業の確認をしているときに、止水ゲートに挟まれた。	170209	7	30～ 49
2004	1	～ 11	資材置場の敷地内に掘った焼却穴を塞いでいた四角すい形の鉄製の蓋を角材で支えていたところ、角材が外れて蓋が閉まり、近くにいた被災者に接触した。	170209	5	1～9
2003	12	～ 14	事業所倉庫3階において、ラックの段数を変更する作業中にラック4段目の金属桁からコンクリート床面に墜落した。	80401	1	10～ 29
2003	12	～ 16	遊技場の建築工事において、建枠を使用して組み立てた照明灯を設置するためのタワー（10.5cm）が強風にあおられて転倒し、そばでタワー部材の片付け作業を行っていた者が下敷きになった。	30201	5	1～9
2003	12	～ 12	マンション新築工事の3階壁のコンクリート打設で、壁型枠を支えている単管パイプ（高さ1.5～2m位）に足を掛けて壁型枠の叩き作業を行っていた床に倒れた。	30201	1	1～9
2003	11	～ 16	木造家屋の解体工事において、2階外壁をロープで引いて部屋の内側に倒したところ、倒れた壁が部屋の中央にあった柱の根本部分に当たって柱の下部をはね上げ、はね上げられた柱の下部が胸から顔に当たり、その反動で倒れたときに床に置かれていた角材に側頭部を打ちつけた。	30202	4	1～9
2003	11	～ 9	道路拡幅工事において、高さ約5mの単管上で防護柵の溶断作業を行っていたところ、鉄板に安全帯のフックを引っ掛けていたところ防護柵の鉄板が倒れて落下し一緒に墜落した。	30199	5	1～9
2003	9	～ 10	ライスセンター内の粳殻庫から粳殻をトラックに搬出する作業で、粳殻庫の下部に設けられているコンベヤに粳殻が落ちてこなかったため粳殻庫の上部から入って棒で粳殻を突いていたときに、粳殻が崩れて粳殻の中に埋もれ窒息死した。	170209	5	1～9
		9	歩道に横付けされたトラックのアオリを外す作業中に、車道と歩道間			

2003	9	～	にある縁石上で足を滑らせて転倒し、側にあった簡易土止め支保工に	30110	2	10～ 29
	10		頭を強打した。			
2003	8	11 ～ 12	ロータリーキルン（鉱石の水分を加熱脱水する設備長さ105m、直径4.8m）の投炭設備（ロータリーキルン内に石炭を投入する設備）のレベル検出装置の点検で、ロータリーキルンの点検口（60cm×60cm）の蓋を開け中の状況を見ていたときに、ロータリーキルン内に墜落し、スクープフィーダーとロータリーキルンのケーシングとの間にはさまれ下半身を切断された。	11109	1	100 ～ 299
2003	7	13 ～ 14	電柱から電柱へ共同アース線を取り付ける作業で、電柱に登って高さ10mの場所で電線の接続作業を行い、電柱から降りる途中でコンクリートの地面に墜落した。	30301	1	30～ 49
2003	7	13 ～ 14	建築中の建物の1階駐輪場内において、給排水管等材料棚（移動式足場用建わく：幅1500mm、高さ1525mm）の最上段に積んでいた材料を取ろうとしたときに、筋かいまたは水平つなぎが設けられていなかったため突然棚が倒れたため棚と壁との間に胸部をはさまれた。	30203	5	10～ 29
2003	7	13 ～ 14	長さ約10mのH型鋼3本をボルトで連結して長さ32mの梁（重さ約8.5t）を組み上げる作業で、梁の地組作業が2本並行して行われていて、2名が地上に2本平行に置かれている梁の約1mの隙間に入ってボルトを締める作業を行おうとしたときに、1本の梁が倒れ2名が下敷きとなって1名が胸部圧迫で死亡した。	30201	5	10～ 29
2003	6	10 ～ 11	刈払機を使用して事業場に隣接する会長宅の庭の草刈作業中に、庭の端部であるコンクリート擁（よう）壁から約7m下の河原に誤って転落した。	140309	1	1～9
2003	5	22 ～ 23	出張のため乗用車で自動車道を走行中に自動車が故障したため、車を降りて非常電話まで路側帯を歩いて行って非常電話で高速道路サービス隊に連絡してもどるときに、路側帯がせまくなっていることに気づかず道路橋の欄干から25m下に転落した。	170209	1	10～ 29

2003	5	16 ～ 17	煙道の耐火材（キャスト）の撤去・搬出作業中に、煙道の天井部分の耐火材の一部が崩壊して直撃された。	30203	5	1～9
2003	5	11 ～ 12	電柱の高さ3.74mの個所に、太陽光連系表示板を取り付ける作業中に墜落した。	30301	1	30～ 49
2003	4	11 ～ 12	水路新設工事において、深さ2.2mに掘削された水路内にL型ブロック（1.5m×2m×0.75m、1.5t）をクレーンで搬入し、3カ所の玉外し作業を行っていたところ、まだ1カ所の玉外しが終わっていないのにクレーンが巻き上げを開始したため、地山とL型ブロックとの間にはさまれた。	30107	7	50～ 99
2003	4	21 ～ 22	工場の敷地内において、プレス製品の部品番号の確認を行い作業場に徒歩でもどるときに、深さ約2.7mの側溝に墜落した。	11502	1	1～9
2003	3	9 ～ 10	住宅の造園工事において、庭に設置した脚立の4段目の踏棧とコンクリート塀とに跨って植木の道路側の面の枝切り作業を行っていたときに、脚立とともに2.38m下の道路に墜落した。	60101	1	1～9
2003	3	13 ～ 14	県道沿いにある防雪柵の収納作業で、防雪柵の支柱を固定している2本のボルトのうち1本のボルトを外し2本目の固定ボルトを外したときに、支柱が倒れたため支柱と防雪板との間に腹部をはさまれた	30199	5	10～ 29
2003	3	14 ～ 15	モルタル吹付用プラントを設置するため、林道路肩の崖側に置かれていた残資材の片付け作業を行って作業場所から休憩場所に向かっていったときに、林道から崖下へ約20m墜落したのち雪面を谷に沿って約400m滑落した。	30108	1	10～ 29
2003	3	15 ～ 16	熱交換器（質量1280kg）の据付けのため、台車からチェーンブロックでつり上げて2階の所定の位置に設置しようとしたときに、チェーンブロックのつり下げ用に取り付けた天井の固定金具のアンカーボルトが天井から抜け落ちたために熱交換器本体が落下し、その下敷きとなっ	30302	4	10～ 29

			た。			
2003	2	14 ～ 15	貨物船（59t）の船底船尾ブロックの製造作業で、船底に付いているつりピースをガス溶断しているときに、6.7m下のコンクリート土間に墜落した。	11501	1	10～ 29
2003	2	11 ～ 12	高炉改修工事で、集じんダストの排出用の樋およびその架台等を撤去するため樋の下から樋の架台をガス溶断していたところ、架台の支えがなくなった樋（6m、約450kg）が落下し激突された。	30309	4	1～9
2003	2	10 ～ 11	岸壁に陸揚げされた消波ブロック製作用型枠を、車両積載型クレーンに積み込む作業中に海中に転落し、作業現場から約50m東の岸壁近くの海底で遺体となって発見された。	40301	10	10～ 29
2003	1	11 ～ 12	木製電柱をコンクリート製電柱に建替える工事において、木製電柱の高さ7.63mの個所で引込線の取り外し作業をしていたときに、電柱の根元が折れて電柱とともに墜落した。	30301	1	1～9
2003	1	11 ～ 12	砂防ダム本体横の法面（のりめん）に積んだブロックの裏面が空洞化していたので、生コンクリートで裏込め作業中に、ブロックが崩壊してきてブロックと生コンクリートに埋まった。	30108	5	1～9
2003	1	16 ～ 17	倉庫前のスクラップ置場で、マグネット式の高脚ジブクレーンにより運搬船にスクラップを積み込む作業のため、散らばったスクラップを手でかき集める作業を行っていたときに、倉庫シャッターを防護するため覆いとして設置されていた鉄板（縦415cm、横459cm、厚さ1cm、質量約1.2t）が倒れてきてその下敷きになった。	50202	5	10～ 29
2002	12	14 ～ 15	マンションの駐輪場において、脚立を閉じた状態で立て掛けて地面より2.5m上に設置されている電灯（直管蛍光管）の交換中に転落した。	150101	1	300 ～ 499
2002	12	15 ～ 16	梱包用資材をストックしている棚の最上段（高さ2.5m）から梱包用資材を地上に降ろす作業中に、コンクリート床に墜落した。	170209	1	1～9

2002	12	16 ～ 17	屋上の鉄筋ヤードにおいて、つり上げ荷重2.8 t のクレーンを使用して鉄筋の束（1束60本、長さ約9m、重さ約2 t）を所定のラックの支柱に寄せて荷卸したときに、ラックの支柱（H鋼）2本の根元の溶接箇所が破断して傾いたため、支柱と隣の支柱との間に挟まれた。	30199	7	10～ 29
2002	12	13 ～ 14	立体駐車場の解体作業において、昼食が終わって午後の作業場所に向かうため、既設リフトの点検用垂直梯子を昇降しているときに17m下に墜落した。	30201	1	100 ～ 299
2002	11	14 ～ 15	植木の剪定作業のため、堀（幅16 c m）に上ったときに1.68m下に墜落した。	60101	1	1～9
2002	11	14 ～ 15	邸宅の解体工事中において、養生ネットを張るため設置していた丸太を解体し、約5mの高さから墜落した。	30209	1	30～ 49
2002	11	19 ～ 20	一部崩壊した道路の危険防止のため、強風により倒れている囲い（プラスチック製）を起こしたのち囲いの中に入り固定する資材を探しているときに、崩壊した穴（6.5×3.1m、深さ1.3m～3.4m）に墜落した。	30106	1	10～ 29
2002	2	5 ～ 6	事業場内の斜面に約13mの電柱を設置する工事中において、穴を掘って電柱を立てて埋め戻しを行ったのち休憩していたところ、自立していた電柱が倒れてきて下敷きになった。	150102	7	10～ 29
2002	8	11 ～ 12	大学正門のフェンス設置工事中において、歩道の片側交互通行の誘導を行っていたガードマンが足の屈伸運動を2～3回行って急に倒れ、縁石（コンクリート製）に後頭部を打ちつけた。	150101	2	300 ～
2002	8	8 ～ 9	商店の土間に砂利石を敷く作業が終了し、門扉（高さ1.8m、長さ9.4m、重さ約200kg）を閉めたときに門扉が倒れ、地面と門扉との間に挟まれた。	30199	5	1～9
		16	中学校体育館の解体工事中において、近隣への騒音対策として枠組足場			

2002	7	～ 17	に取り付けて設置しておいた防音パネルを4段目の作業床で上部のパネル（90×180cm 重さ約10kg）を取り外そうとしたところ、下部パネルも同時に外れてパネルごと7.12m下に墜落した。	30209	1	10～ 29
2002	7	～ 16	有線放送用ケーブルの架線工事で、電柱の地上から約4.5mの高さで作業を行っていたときに、電柱から墜落し、さらに約43mの崖下まで転落した。	30301	1	1～9
2002	7	～ 14	路盤コンクリートの型枠パネルの荷下ろし作業で、事前に高架橋の荷下ろし材料の位置を確認し高架橋より地上に降りようとしたときに、架設通路最上部の筋交いを乗り越えて約15m下に墜落した。	30105	1	50～ 99
2002	4	9 ～ 10	地上14階建て建築工事の高さ40.8mの外部足場解体作業において、解体済み足場材のブレスを1組ずつ降ろししていたところ、2組の長さの違うブレス材が混じりこみその内1組が18段目（高さ30.8m）から落下し、下で足場材の片付け作業に従事していた者に激突した。	30201	4	30～ 49
2002	4	～ 14	マンション新築工事において、土中に仮埋めした長さ4mの杭の上の同種の杭を移動式クレーンを用いて吊ったまま2つの杭を仮溶接し、その直後に写真撮影を行うため杭の至近距離で黒板を持っていたところ、仮溶接が外れてきて杭が身体に激突し、反動でクレーンのアウトリガーに頭部を強打した。	170201	6	30～ 49
2002	4	16 ～ 17	建物3階の型わく解体のため、4尺脚立に上り梁と壁の間のスラブ型わくを解体していたときに、脚立が転倒して落下し頭部に激突した。	30201	1	10～ 29
2002	1	～ 11	団地テレビ共同受信施設専用の円柱状の塔（長さ約8m、直径約13cm、地上高約6.6m）73本の撤去作業中、その内の1本の鉄塔が腐食により根元より折れ、円柱状の鉄塔と共に地面に叩き付けられた。	30301	5	0
2002	2	0 ～ 1	貯木場内の材木を徒歩により確認する作業中、水深2.6m、水温0度、氷の厚さ4～10cmの貯木場に転落し水死した。	50201	10	1～9

2002	1	8 ～ 9	吐水槽躯体工事の外部足場解体前の養生用屋根撤去作業で、手すりとクリアシートを約半分まで撤去を終えたときに、クリアシート撤去後の開口部（幅110cm）から墜落し、11.8m下の吐水槽底のコンクリート面に激突した。	30199	1	1～9
2001	11	17 ～ 18	ビル9階の廊下の窓から、同ビルの3階の屋根部分に約17m墜落した。	30203	1	30～ 49
2001	10	8 ～ 9	副原料タンクを取り付けるため、高さ5.80mの鉄骨上で準備作業を行って墜落した。	30309	1	1～9
2001	12	11 ～ 12	会館の解体で解体物の飛散を防ぐため建物の周囲にシートを張るための鋼管組み立てを行っていて、高さ11.9mの鋼管の上から墜落した。	30209	1	100 ～ 299
2001	11	0 ～ 1	ガス管2本を埋設するため、掘削深さ1.4mのところでガス管の接合部の調整作業をしていたところ、掘削箇所と並行して建っていたコンクリートブロック塀(1.5m×3.6m)が倒れ、掘削箇所のアスファルト部と塀との間に頭部をはさまれた。	30199	5	10～ 29
2001	9	15 ～ 16	低温倉庫の外部改修工事において、外部足場の部材等の片付け作業をしていたときに、足場からアスファルト地面に転落した。	30209	1	10～ 29
2001	10	9 ～ 10	建屋の解体工事において、電柱5本撤去のため古い木製電柱(高さ10m直径22cm)に登り電線を外す作業中に、電柱が根本から折れ電柱とともに墜落した。	30301	1	1～9
2001	10	8 ～ 9	建設工事現場で上床縦桁鉄筋を組立て中、鉄筋が崩れて下部で作業中の者2名が鉄筋に押し潰された。	30103	5	1～9
		9	高校のグラウンドにおいて体育祭用の応援席スタンドの組立中、トラス			

2001	8	～ 10	材(1本約100kg)数本が倒れその下敷きになった。	30199	5	1～9
2001	6	13 ～ 14	植木の植栽帯で刈込鋏を使用して高さ3・5m、幅1・2mのきんもくせいの刈込を行っていて、転落した。	60101	1	1～9
2001	6	10 ～ 11	用水用仮橋梁桁に信号ケーブル用鋼管を取り付けるため桁端部のバラスト上で鋼管の据付状況を確認していたときに、バランスを崩して約0.95m下の土間に落下、さらに、そこから法面を滑って約1.1m下の川に滑落した。	30106	1	100 ～ 299
2001	4	9 ～ 10	曲げ作業で使用するパレットが無くなったので、フォークリフトを使用してラック上のパレットを卸そうとしたがラック前に物が置いてあるためフォークを前に出せなかったため、ラック上部に登りパレットを引き出そうとして足を滑らせ約2.2m下に転落した。	11209	1	10～ 29
2001	4	10 ～ 11	単管で補強していたブロック塀(高さ2m)を解体するために単管を外し、単管をかたずけていたとき、ブロック塀が倒壊し、手伝いに来ていた土工が下敷きになった。	30309	5	10～ 29
2001	3	8 ～ 9	出勤後、プール周辺の清掃と駐車場シャッター及びバリカーの開放作業を行い、その後、1階北側のドライエリア、グレイチング部のゴミを取り除こうとグレイチングの上に乗ったときに、グレイチングが外れ5m下の地下1階に転落した。	120109	1	1～9
2001	3	8 ～ 9	建物1階のドライエリア(地下への機材搬入のためのスペース)を覆っていたグレイチング上に乗ったときに、仮置きグレイチング1枚(約90cm×90cm、重さ約22.6kg)とともに約5m下の地下1階床部分に墜落した。	170209	1	1～9
2001	3	0 ～ 1	客の注文により冷凍庫内へ商品(重量5kg1個)を取りに行ったまま戻ってこないの見に行くと鼻血を出して倒れていた。(他の商品等を足場にしながら上がろうとして転落したものと推定)	80109	1	1～9

2001	3	15 ～ 16	製材工場の休憩室にある薪ストーブの煙突掃除のため、煙突に近接した位置にある塀に木製梯子を立て掛け塀に乗り、掃除に取り掛かろうとしたときに、足を踏み外して1.7m下の町道に墜落した。	10401	1	1～9
2001	2	16 ～ 17	個人宅のベランダ工事において、手すりとして使う丸太をボルトで固定する作業をしていたときに、丸太製の手すりが倒れてきて、その下敷きになった。	30202	5	1～9
2001	2	16 ～ 17	2つで1組の鋼製型枠の解体作業中、立てかけていた片方の鋼製型枠(質量900kg)が強風のため倒れ、倒れてきた型枠と解体中の型枠との間に頭部をはさまれた。	30201	5	30～ 49
2001	2	10 ～ 11	コンクリートブロックの型枠解体作業において、フォームタイ(せき板を両側から締め付ける器具)の抜き取りをしていたところ、型枠(約300kg)が倒壊し、下敷きになった。	30111	5	1～9
2000	1	13 ～ 14	下水道工事において、道路を掘削して掘削下部に入り土留め鋼矢板を保持しているときに、背部のコンクリート擁壁が倒壊し下敷きになった。	30110	5	30～ 49
2000	3	9 ～ 10	駐車場の新設工事において、型枠の建ち上げ作業のためにパイプサポートの設置作業中に、工事現場と水路に接する幅175cmの平地の端から深さ7.5mの水路の底へ転落した。	30209	1	1～9
2000	11	21 ～ 22	建物の改修工事において、4階の窓に鋼鉄製のステージ(長さ2.5m、幅1.35m)を設置し、地上で移動式クレーン、4階でフォークリフトを使って資材の搬入を行っていたときにフォークリフトがステージに当たってステージがはずれたため、ステージから約12m下の地上に墜落した。	30201	1	1～9
2000	5	9 ～ 10	トラクター・ショベルで砂を「とおし」と呼ばれる鉄製のふるいにかけて、石や草などのゴミ等を取り除いたのち混合し新幹線の枕木を製造するための生コンクリート用砂を作る作業中に「とおし」につまった草等を取り除くためトラクター・ショベルのバケットで「とおし」を持ち上げその上で草等を取り除いていたときに「とおし」が外れて	40301	1	10～ 29

			下敷きになった。			
2000	4	14 ～ 15	橋梁につり足場を設置するため、河川敷に簡易枠で作業構台を組み立てラフタークレーンでつり足場の部材をその構台に降ろし、部材の荷はずし作業を行っていたときに同構台が倒壊した。	30209	5	1～9
2000	4	16 ～ 17	農業用倉庫のシャッター枠(高さ3. 1m、長さ2. 7m)を倒してトラックに積み込もうとしていたところ、枠がトラックの反対側に倒れて前額部にあたり頸椎を損傷した。	30209	5	1～9
2000	3	0 ～ 1	倉庫内の天井クレーン(吊り上げ荷重2. 8t)の修理の下見のため、壁面に取付けられたH型鋼に足をかけてクレーンガーダ(高さ約7メートル)まで上がり、クレーンの状態を確認したのち降りる途中で鋼高2. 8メートル下の床面に墜落した。	11203	1	1～9
2000	12	16 ～ 17	2段式駐車装置の設置工事において、前日に完成した駐車装置の点検作業中に駆動チェーンの安全ピンを誤って抜いてしまったため、チェーンが外れてパレットが落下し、パレットの下で作業中の者2名が下敷きになり1名が死亡した。	30302	4	1～9
2000	12	16 ～ 17	製品保管ラックの最上段(高さ334cm)に積み上げられたパッケージケース(ダンボール箱、質量約12～13kg)を出荷するため、フォークリフトを棚の横に停車させてパレット最上段へ昇って一番上のケースを降ろしているときに墜落した。	50101	1	10～ 29
2000	12	12 ～ 13	閉店時間となったので店内2階の戸締まりを行っていたときに、店内2階入口に設置されていた電動式防火防災シャッター(横5m10センチ、高さ3m)に背中を挟まれた。	140309	7	50～ 99
2000	10	9 ～ 10	外部足場の養生朝顔取付作業で、枠組足場9段目の西南コーナーで朝顔の取付作業中にバランスを崩して約16m下へ墜落した。	30201	1	10～ 29
2000	2	9 ～	村道の側溝の仮設管(長さ約32m、直径約9cm)を側溝開口部から軽トラックで牽引して引き出す作業で、引き出す仮設管を両手で抱えてい	30110	2	1～9

		10	たところ、牽引された仮設管のジョイントが側溝蓋に引っかかって外れた反動で仰向けに押し倒されて後頭部を路面に打った。			
2000	10	14 ～ 15	落石防止用の金網設置工事において、仮付けされた金網を縦方向に固定するための補助ワイヤーロープの本留め作業中に墜落した。	30199	1	1～9
2000	11	17 ～ 18	9階建ホテル屋上の排気装置の補修工事予算要求資料を作成するため、屋上で排気装置の写真を撮影していたときにあやまって高さ30mの屋上から墜落した。	140101	1	10～ 29
2000	12	7 ～ 8	ホテルで、チェックアウト後の火の元などの確認中に、2階客室で換気のために窓を開けているときに窓から約4m下のコンクリート面に転落し、さらに近接する水路に落ちた。	140101	1	1～9
2000	5	7 ～ 8	汚水処理場解体工事現場において、解体途中の建屋内で鉄筋が刺さって右腋下部から出血し、倒れていたのを同僚に発見された。	30199	8	1～9
2000	3	16 ～ 17	引越し作業において、階段が狭いので冷蔵庫をロープで3階から2人で下ろしていたところ、1人が冷蔵庫とともに高さ7.05mの窓から公道のアスファルト上に墜落した。	40301	1	10～ 29
2000	11	11 ～ 12	大型のボックスカルバート用型枠の補修作業で、四角柱形の型枠を固定していたボルトを外していたときに型枠(1枚500kg)が倒壊し下敷きになった。	11209	5	1～9
2000	1	9 ～ 10	電車の振動で生じる地階の外周コンクリート壁のクラックを最小限に押さえるため仮に設置したコンクリート仮設物(バットレスと呼称)を手持ちのコンクリートブレーカーで破碎していたところ、1つのバットレスが作業に倒れて来て押しつぶされた。	30209	5	10～ 29
2000	3	10 ～ 11	廃液処理工場において、硫酸銅に消石灰を加えて中和させる槽(直径3.22m、深さ3m)のモーターのグリースアップを終えて戻る途中、槽の亚克力製の蓋を踏み抜いて蓋とともに深さ2.15mの液体の入った	150102	1	10～ 29

			槽の内部に墜落した。			
2000	5	9 ～ 10	観客スタンドのベンチ取付け作業のため、コンクリート製スタンドの型枠を解体していた時に空調設備設置用の開口部(1m×0.7m)の蓋を踏み抜き5.1m下のコンクリート床に墜落した。	30201	1	10～ 29
2000	5	15 ～ 16	前年度に掘削を終了した立坑の覆工板受けの中間桁が、取外し可能かどうかを1枚の覆工板を外して確認し、桁の上に落ちている碎石を取除こうとしたときに約11m下に墜落した。	30110	1	10～ 29
1999	7	14 ～ 15	電気炉の定期修理作業で、電気炉の残さい物取出口において残さいのかきだし作業を行っていたところ、残さいの飛びはね防止用に設置していたL字型の防御板が突然倒れてきて顔面を直撃した。	11001	5	100 ～ 299
1999	5	15 ～ 16	林道災害復旧工事現場において、コンクリート擁壁の型枠材に足を掛けて型枠の組立作業を行っていたときに、バランスを崩して張り出し足場(高さ3m)の上に墜落し、さらに足場の手すりの間から地上に転落した。	30106	1	10～ 29
1999	5	10 ～ 11	砂防(堰堤)工事現場において、6名が堰堤下で残土処理、片付処理などを行っていて、落石に備えて堰堤上の山道上で見張りをしていた者が約16m下の堰堤付近に連絡した。	30199	1	1～9
1999	9	9 ～ 10	製造中のコンテナクレーン(吊上げ荷重67.5t)を架台に載せた状態で設置していたところ、台風の強風で隣接の事務所へ倒壊し就業中の労働者を直撃した。	11301	5	1000 ～ 9999
1999	9	9 ～ 10	製造中のコンテナクレーン(吊上げ荷重67.5t)を架台に載せた状態で設置していたところ、台風の強風で隣接の事務所へ倒壊し就業中の労働者を直撃した。	11301	5	1000 ～ 9999
1999	9	9 ～ 10	製造中のコンテナクレーン(吊上げ荷重67.5t)を架台に載せた状態で設置していたところ、台風の強風で隣接の事務所へ倒壊し就業中の労働者を直撃した。	11301	5	1000 ～ 9999
		10	ひらめの養殖水槽において、ひらめの死骸を除去するため水槽(水深			

1999	10	～ 11	60cm、水温23度)内に入ったときに転倒し、着用していた胴付長靴に海水が入り溺れた。	70209	10	1～9
1999	10	8 ～ 9	呑口桝の型枠解体作業で溝に溜まった雨水を排出するための排水路をバックホウで開削したのち、排右旋回したところ樹木が障害となりできなかったので左旋回したところ、コールゲートパイプ上にいた者がコールゲートパイプから地面に墜落した。	30199	1	1～9
1999	6	9 ～ 10	公園内の公衆便所の壁面等を掃除するため、洗面台に上がり作業をしていたときに、洗面台がぬれていたため足を滑らし、床に転落して頭を強打した。	150109	1	10～ 29
1999	2	8 ～ 9	駐車場でアドバルーンの監視中に約18m～20mの突風が吹いたため、アドバルーンのロープを引き降ろしていたときに、ロープを持っていた手が滑り、その反動で転倒し後頭部を強打した。	90209	2	1～9
1999	6	11 ～ 12	事業場内の污水排水処理施設において、水処理管理の業務を単独で行っていたときに誤って、水槽に落ちた。	150102	10	1～9
1999	1	9 ～ 10	道路整備工事において、法面の岩石落下防止用のフェンス張りを行うための準備で、安全帯をフェンスの金網に掛けながら地山を横方向に移動中に約20メートル下の県道に墜落した。	30106	1	1～9
1999	6	9 ～ 10	庭木を植えるため、庭石の際をスコップで掘っていたところ、庭石が倒れてその下敷きになった。	60101	5	1～9
1999	5	10 ～ 11	事務仕事の合間に構内花壇の草取りをするため花壇内に入ろうとして、アルミ製の柵を跨ごうとしたときに、柵の先端にズボンの裾が引っ掛かり転倒し、その際に右足大腿部内側のほぼ中央に柵の先端が約7cmほど刺さった。	11102	2	10～ 29
1999	4	～ 15	現場事務所に電話配線を行うため、工具棚上のカラーボックスの上にあっがたときに、カラーボックスの天板を踏み抜いて高さ約1.6メー	30301	1	1～9

		16	トルのところから墜落した。			
1999	4	9 ～ 10	陸揚げされた鋼製可動橋の一部(1. 17m)をガス溶断器で切断し、切断部分の下をのぞきこんでいたときに、鋼材が転倒してきて頭部に激突した。	30105	5	1～9
1999	3	9 ～ 10	貨物の運送のために貨物自動車で倉庫に到着し、同僚運転手と作業の打合せを行った後転倒して意識不明となった。	40301	2	100 ～ 299
1999	3	9 ～ 10	ドラグショベルでグレーチングを吊りピットに設置作業で、いったん被せたグレーチングの上に乗って調整しているときに、グレーチングがピットの肩から外れ、かつ、グレーチングを吊っていたワイヤーロープも外れたためピット内に墜落した。	30199	1	10～ 29

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to https://www.jisha.or.jp/international/topics/202210_29.html